

季刊

とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

自然と共に生き、 活気あふれる対馬の未来を一緒につくろう

—国際ワークショップ及び市民ワークショップ開催—



3日間計約120名の参加者が熱のこもった議論を行いました

い現状や減少要因などの説明を受けた後、参加者は各自の専門分野に従い、4つのグループ(ツシマヤマネコと共生する地域社会づくり/生息域内保全(個体群存続可能性評価(PVA)・モニタリング)/飼育下繁殖/感染症対策)に分かれて議論しました。今回のWSの特色は、様々な分野からの参加者ひとりひとりが、当事者意識を持って人とヤマネコの共生を考えることです。そのために、何が課題で、何を行うべきで、それに対して、何が自分に出来るか、様々な知恵を出し合い積極的に話し合いました。途中より広い視野で考えるために全体会合を行い、他のグループとも意見を交換しながら達成目標を設定し、その達成に向けた実現可能な計画やその方向性を話し合いました。

＜市民ワークショップ＞

11日夜には、一般市民も加わり市民WSが開催されました。国際WSで議論を行った各グループから3日間の成果が発表され、そこで新たに参加者からの意見が加えられました。市民WSの最後には「対馬もヤマネコも—共に生きる未来のためのメッセージ」(3ページに掲載)を、未来の対馬を担っていく高校生が代表して発表し、WS参加者で採択しました。

国内外から多くの人々が参加した3日間の議論の中で、「ヤマネコをはじめとする対馬の自然との共生」に一定の方向性が見えてきました。今後この成果を実現していくためには、WSに参加した人の行動だけではなく、何より対馬に住む皆さんの理解と協力が不可欠です。このWSをスタートにして「自然と共に生きる、活気あふれる対馬の未来」をみんなで一緒につくっていきましょう。

1月9～11日の3日間、美津島文化会館でツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップ(以下、WSとする)と市民WS「対馬もヤマネコも—ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりを目指して—」が開催されました。

＜国際ワークショップ＞

国際WSの参加者は3日間合わせて約120名。国内外の専門家、行政、そして3日目からは地元対馬の市民代表も加わり議論しました。ヤマネコの厳し



グループ毎に中間報告をし、他のグループとも意見交換を行いました



参加者を代表して、高校生がWSからのメッセージの発表を行いました

ワークショップの成果については次ページ以降に掲載しています。是非ご覧下さい。

対馬もヤマネコも

— 共に生きる未来のためのメッセージ —

私たちのしま「対馬」。大陸と日本を結ぶところに位置する対馬は、山と海に抱かれ、豊かな自然の恵みや、悠久の歴史とともに生きてきた島です。

対馬にはどこか昔なつかしい景色が各地に残り、そこに暮らす人たちも、都会の人が失ってしまった何かをまだ持っています。ツシマヤマネコは、そのような対馬の自然の中で人々とともに今日まで暮らしてきました。

かつて、ツシマヤマネコは対馬全域に広く分布していました。しかし、最新の調査結果ではその数が、80～110頭と次第に減ってきていることが分かりました。ヤマネコの姿が全くみられなくなってしまった地域もあります。このままでは、いつか対馬からヤマネコが居なくなってしまう日が来るかもしれません。

この3日間、私たちはツシマヤマネコの唯一のふるさとであるここ対馬で、市民、行政、そして、専門家などが集まり、ツシマヤマネコをはじめとする自然と、これからも共に生きていくための知恵を持ち寄り、今、私たちは何をしなければならないかを話し合うためのワークショップを開きました。

ワークショップでは、「ツシマヤマネコと共生する地域社会」すなわち、「人が安全快適に暮らし、自然と共に生きる対馬」をみんなで創っていくことが提案されました。

具体的には、孫と暮らせる豊かな対馬であり続けるために、自然を活かした農業・林業・観光業を推進しよう。自然そして命を大切にするために、飼っている全ての動物を最後まで責任を持って飼おう。子供たちが地域の自然や文化についてもっと身近に学び、体験できるようにしよう。ツシマヤマネコを対馬の豊かな自然の象徴として守り、増やしていこう。対馬の宝、日本の宝、そして世界の宝としてツシマヤマネコを絶やさないように、みんなで知恵を出し合って協力しよう、などの目標のために、さまざまな取り組みを行っていくことが提案されました。

対馬の人もツシマヤマネコも安心して生きていくことができる地域をつくることは、私たち市民にとって、本当の豊かな暮らしをつくること。「対馬もヤマネコも」。それが実現した時、対馬に人々の笑顔と誇りが満ちあふれ、動物たちも安心して暮らすことができるでしょう。

このワークショップをスタートとして、ツシマヤマネコをはじめとする対馬の自然と共に生きる、活気あふれる対馬の未来を一緒に創っていきましょう。

平成18年1月11日
ツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップ
市民ワークショップ
参加者一同

対馬で暮らすヤマネコを守るための飼育下繁殖個体群づくり

○ 安定した野生個体群回復のための飼育下繁殖の目的

1. 緊急避難的な種の保存＝ノアの箱舟
→生息地で安定して暮らせるようになるまでの避難
2. 野生個体群保護対策の補完(再導入など)
3. 科学的データの収集と解析
→ヤマネコの保護対策に応用
4. ツシマヤマネコを全国の人に知らせる

《現在の飼育下個体群事業の課題》

1. 長期的な飼育下繁殖実施計画づくり
2. 資源の不足(資金・施設・人材)
3. 市民への情報提供と社会的理解を得る
4. 近親交配の問題(ファウンダの不足)
5. 再導入の準備(再導入施設など)

■ 飼育下繁殖個体群の確立と再導入が可能になるまでの流れ

① **ファウンダ導入** 1996年から現在まで、合計6頭の野生個体が飼育下繁殖の原資(ファウンダ)として福岡市動物園に導入され、そのうち4頭の子が繁殖に成功しました。しかし、この数は近親交配を避けるためには十分ではありません。

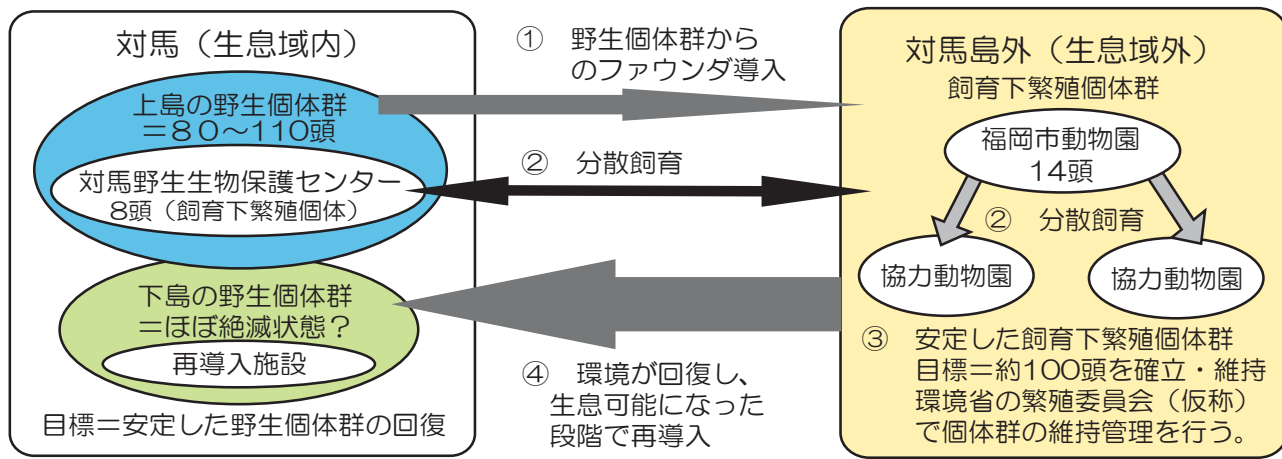
② **分散飼育** 2000年にはじめて成功して以来順調に繁殖が進み、飼育下繁殖個体群は現在までに22頭になりました。しかし、このまま福岡市動物園だけで飼育を行うと、万一、感染症の流行や事故が起こった場合に、一度に多くの個体を失ってしまう可能性があります。また、飼育個体数がさらに増えれば、施設、資金、人材もさらに多く必要となります。

それらの問題を解決するためには、対馬野生生物保護センターや複数の協力動物園などで分散してヤマネコの飼育下繁殖を進める必要性が指摘されています。現在、環境省では平成16年発表の再導入基本構想に基づき、(社)日本動物園水族館協会とツシマヤマネコ飼育下繁殖の協力体制づくりに向けた話し合いを行っています。

③ **安定した飼育下繁殖個体群の確立** 近親交配を避け、「ファウンダの遺伝的多様性の90%を100年間維持する」という世界的な基準を満たした状態が「安定した飼育下繁殖個体群」とされます。国際ワークショップでのシュミレーションでは、ツシマヤマネコでその基準を満たすためには、約100頭まで飼育下個体群の数を増やし、それを維持する必要があることが示されました。少し増えたからといって無計画に再導入を行うと、飼育下の個体群を多数失ってしまう危険性があるため、100頭前後を長期間維持する必要があります。

④ **再導入** ひとたび安定した飼育下繁殖個体群が確立できれば、100頭以上に個体を増やし、ツシマヤマネコの生息がみられなくなった地域に再導入することも可能になります。そのためには、その再導入する地域でヤマネコが暮らせるように、自然環境の回復・改善を行うことが前提になります。再導入を成功させるためには、さらにヤマネコの生態についても調べる必要があります。その調査結果は、野生個体群の保護にも活用することができます。

また、繁殖や野生順化訓練を行うための再導入施設を対馬内に設置する必要もあります。





センターで飼育中の 飼育下生まれのヤマネコ紹介



飼育下で生まれ
た8頭のツシマ
ヤマネコたちを
紹介します！

2004年12月に完成した一時収容施設では、福岡市動物園で生まれ、里帰りしたツシマヤマネコを飼育中です。彼らは飼育下繁殖個体群づくりの一員として一時的にここで暮らしています。

一見みな同じに見えるツシマヤマネコたちですが、人と同じように顔も性格も異なり、それぞれ個性があります。



No.12 オス

[2002年4月9日生まれ]
年長でもうすぐ4歳になります。体は一番大きいですが、小石などで一人遊びをします。



No.17 メス

[2003年4月7日生まれ]
No.22とは年違いの兄弟です。ヤマネコにしては耳が大きく、特徴的な顔をしています。



No.22 オス

[2004年3月28日生まれ]
活発に運動します。いつも走り回っていますが、疲れると柵の上でぐっすり寝ています。



No.23 オス

[2004年4月3日生まれ]
発情期に入り落ち着きがありません。盛んに尿スプレーをします。一番の食いしん坊です。



No.24 メス

[2004年4月3日生まれ]
性格は神経質で寒がりです。一番の美人ですが、よく背中に寝癖をつけています。



No.25 メス

[2004年4月10日生まれ]
No.12と年違いの兄弟です。顔はNo.12に似ていますが、性格は反対で臆病です。



No.28 オス

[2004年4月19日生まれ]
No.29と兄弟です。No.29より控え目ですが、好奇心旺盛で、いつも私たちの方が観察されています。



No.29 オス

[2004年4月19日生まれ]
線は細いですが何にでも興味を持ちます。気性が荒く、お腹が空いたときはイライラしています。

対馬の宝、日本の宝を守るために

野生のツシマヤマネコの個体数は現在80～110頭と推定され、生息地の中でヤマネコを守ることは最も優先される課題です。しかし、ヤマネコ保護には、さまざまな社会的要因が絡み、今日、明日に簡単に解決できるものではありません。10年で約10%もの個体数の減少や生息適地の減少が進む中、絶滅を阻止するために、これからも試行錯誤が続きます。

ツシマヤマネコは、対馬の、日本の、そして世界の大切な財産です。その大切な財産を永遠に失うことが無いよう、このツシマヤマネコ飼育下繁殖事業は、日本各地の関係機関や専門家からの多大な資金的、労力的、知識的な協力を頂いて行われています。

世界で過去に絶滅した野生生物の中には、飼育下繁殖への取り組みが遅すぎたこと、あるいは近親交配が原因で繁殖が成功しなかったことで、その姿を永遠に消してしまった種もあります。ツシマヤマネコの飼育下繁殖の成功は、毎年ニュースになり、もはや当たり前のようなのですが、一般にネコ科野生動物の繁殖は難しく、この成功は貴重な成果なのです。この成果を生かし、近親交配を避け、野生個体の遺伝子を十分保ちながら約100頭を安定的に維持できる飼育下繁殖個体群を確立することがツシマヤマネコの飼育下繁殖事業の次の目標です。その実現によって野生個体群保護につながる再導入などの取り組みがはじめて可能になります。ツシマヤマネコが対馬でいつまでも暮らすことができるよう、これからも皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

外来種 予防三原則 — 「入れない」「捨てない」「拡げない」!



外来種について熱心に意見を交換

島には、長い時間をかけ、独自の進化をとげた生き物が数多く息づいています。しかし今、人によって持ち込まれた「外来種」により、島の貴重な生き物たちの生息がおびやかされています。昨年11月23日、この外来種をテーマとする市民シンポジウム、「対馬もヤマネコも—対馬のすばらしい自然とその危機—」が美津島文化会館で開かれ、約120名が参加して熱心に意見を交換しました。

シンポジウムでは、沖縄や奄美、小笠原、グアムなど多くの島々で、そして対馬で実際に起きている外来種の影響や対策についての紹介がありました。どの島でも、ひとたび外来種がはびこると、対策には大変な労力・費用・時間がかかり、それでも解決が難しいことが報告されました。

また、全国的に問題になっているアライグマやタイワンリスが長崎県内で生息域を拡大しているという報告もありました。専門家の先生からは、神奈川県ではアライグマが自分でフェリーに乗って千葉県に移動しているという実例紹介があり、新たな外来種が対馬にいつ入ってきてもおかしくないというコメントも聞かれました。

まず、島に外来種を入れないこと、そしてペットは捨てずに最後まで責任を持って飼うこと。このシンポジウムでは、外来種問題の予防のためには「入れない」「捨てない」「拡げない」の一人一人の心がけが、最も大事であることを参加者全員で確認し合いました。

さあ、お外にでかけよう! 棹崎公園 お散歩観察会

11月のお散歩観察会は、「野鳥の巣箱づくりに挑戦!」でした。午前中は棹崎公園で巣箱を利用する鳥、利用しない鳥を実際に観察して、野鳥の暮らしについて学び、午後から巣箱づくりを始めました。親子で巣箱をつくり始めたのですが、いつのまにやら一番夢中になっているのはお父さんです。もちろん親子の共同作業で巣箱は完成しましたが、普段は子どもたちが見る機会の少ない、お父さんの真剣な姿も見られる観察会となりました。

午前中に観察できた鳥は、メジロ・ヒヨドリ・ハヤブサ・ミサゴ・キウイタダキなど。完成した巣箱は、小鳥が使う様子をいつでも観察できるようにと、参加者のおうちの近くに掛けてもらいました。春が楽しみですね♪



親子で巣箱づくり♪

2月3月の観察会

■2月26日(日)

13:00~14:30

棹崎冬の野鳥観察会

メジロやヒヨドリなど、ツバキの蜜を吸いに棹崎にやってくる野鳥を観察します。

■3月26日(日)

13:00~14:30

棹崎春の植物観察会

初春の植物の代表格、スミレの仲間を中心に、棹崎の植物を観察します。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

2月 6日、13日、20日、27日

3月 6日、13日、20日、27日

4月 3日、10日、17日、24日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第32号は2006年4月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先
〒817-1603
長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター
電話 : 0920-84-5577
ファックス : 0920-84-5578
E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

ヤマネコを交通事故から守ろう！ 対馬野生動物交通事故対策連絡会議発足！

ツシマヤマネコの生息数は80-110頭と推定されており、1980年代以降減少傾向が続いています。ツシマヤマネコの減少要因として、生息適地の減少や感染症等が考えられますが、人為的な要因としては、交通事故が直接減少させる要因として数年来の大きな課題となっています。交通事故は、確認されているツシマヤマネコの死亡原因で最も多く、平成4年以降37件にのぼり、うち33頭が死亡しています。交通事故対策としては、これまで環境省・長崎県が中心となり対馬市民やドライバーに対する普及啓発活動を中心に行っていますが、本年1月には交通事故多発地点2カ所に「野生動物用反射板」が設置され、ヤマネコ側にも注意を促すような対策が始まりました。（反射板設置箇所：対馬市上県町榎滝の国道、峰町大久保の県道）

対馬野生動物交通事故対策連絡会議（事務局：長崎県自然保護課）は、ツシマヤマネコをはじめとする対馬の野生動物にも配慮した道路整備や道路周辺の環境整備を進めるため、情報交換の場として設置されました。今後、この会議を通じて各機関の道路整備部門と自然保護部門が連携し、野生動物の交通事故を減らすために、より具体的な対策を行う予定です。





対馬野生動物交通事故対策連絡会議の協議事項

次の事項について、情報交換、意見交換を行います。

- (1) ツシマヤマネコ等の交通事故発生状況およびその防止対策
 - ・交通事故対策が可能な場所および優先順位の検討
 - ・交通事故発生原因の検討、究明
 - ・交通事故対策後の検証方法の検討
- (2) 対馬における公共事業の計画および実施状況
- (3) 先進事例の研究

上写真＝3月29日に交通事故で死亡した成獣メス。お腹の中には2頭の胎児がいました。このように交通事故は健康な個体を突然失うことになり、その後生まれれてくるはずだった子孫も同時に失うこととなります。（このヤマネコの交通事故現場検証については3ページに掲載。）

無料 ネコの健康生活
サポートキャンペーン
実施中！  ネコにいいこと
 はじめませんか？

主催：対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会

このキャンペーンでは、皆さんがネコとより良い暮らしができるように、獣医さんが無料で、マイクロチップ（迷子札）の埋め込み、避妊去勢手術、ウイルス検査、寄生虫検査、ワクチン接種を行っています。



《申込み・お問い合わせ先の電話番号》

- 市役所・市民課または観光交流課 53-6111
- 各支所・地域振興課
- 上対馬 86-3111、上県 84-2311、峰 83-0301
- 豊玉 58-1111、美津島 54-2271

ヤマネコセンターで
職場体験

地元中学生からの職場体験感想文

佐護中学校2年 平山 卓磨くん



ヤマネコの検査を行う平山くん

※1 餌の栄養バランスを考えて、様々な肉にサプリメントを加えて与えています。カンガルー肉は安価なため取り入れています。

※2 福岡市動物園の飼育下で生まれたヤマネコたちが一時里帰りしています。

※3 野外ケージにカエルなどの小動物が入ってきて、それを通じて寄生虫が感染することがあります。

先日はお忙しい中時間をさいて、仕事の内容などを詳しく説明していただきありがとうございました。

今回の職場体験でツシマヤマネコの事やセンターの仕事などがよくわかりました。その中でも特に驚いたのは、ヤマネコがカンガルーの肉を食べていること(※1)や、センターに15匹もツシマヤマネコがいること(※2)です。ツシマヤマネコと言ってもネコだからネズミとか鶏を食べる程度だろうと思っていたら、カンガルーを食べるとは良いものを食べているなと思いました。それに、センターにいるヤマネコの数も、公開されているのと、前に自分の家の畑で捕まえた2匹くらいだと思っていたので意外でした。ヤマネコの飼育場の掃除では、センターの奥まで入る事ができたし、ヤマネコも実際に間近で見えることもできました。

その後にした糞便検査では寄生虫の卵が見つかったのか悪かったのか複雑でした(※3)。その後に行った観察会の下見は、事前に調べておくことや、その場所にある物の名前とかを知っておかないといけないということ学びました。

私が今回の体験でわかったことは、ヤマネコはとてもデリケートな生き物で、センターの人は、そのヤマネコに対しての配慮などを呼びかけたり、保護したりするのが仕事なんだなあということです。

対馬市ホームページ ヤマネコライブカメラ設置!

今年の春から、対馬市のホームページ上にて、当センターで一般公開されているツシマヤマネコ(つしまるくん)のライブ映像が配信されています。6月からはヤマネコのベストショット集もでき、カメラの目の前を通り過ぎるヤマネコや、空を見上げるヤマネコの映像を見ることができます。ホームページでツシマヤマネコを見た後は、是非本物に会いにいらしてください。 ※ライブカメラホームページはこちら <http://58.90.155.114/>



つしまるくんを見守るライブカメラ

■ 大林 圭司 (前・環境省・対馬自然保護官)

とらやまの森も私が関わって10号目。改めて読み返してみると、本当に色々なことがありました。対馬での日々は、密度が濃く充実していて、そして非常に短いものでした。対馬の人やセンター職員をはじめ多くの人と出会い、一緒に頭を悩まし、行動できたこの2年3ヶ月は、他に代え難い大きな財産となりました。一つの区切りとして、心から一人一人に感謝致します。これからはヤマネコと対馬を外から応援します。またお会いしましょう。

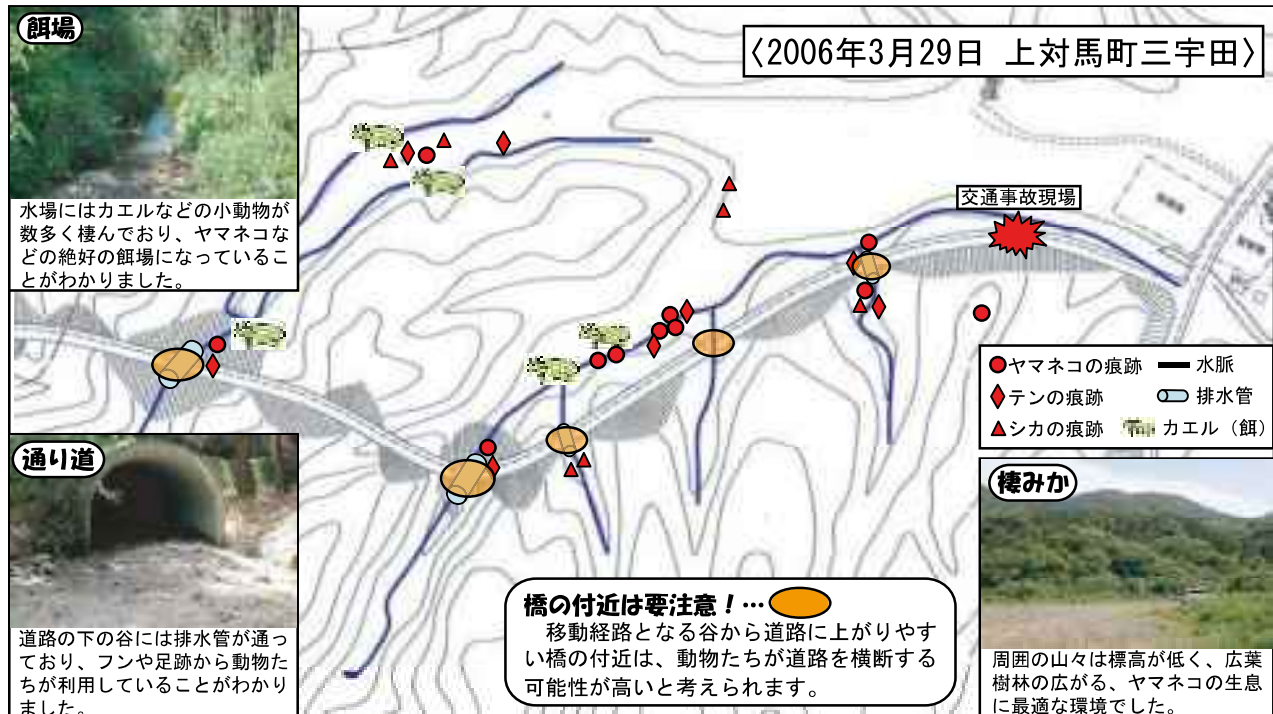
■ 佐々木 真二郎 (新・環境省・対馬自然保護官)

対馬に初めてやって来ました。ツシマヤマネコに会うのも初めてです。対馬に来て、対馬の自然の豊かさに日々驚かされます。これからの対馬生活がとても楽しみです。この豊かな対馬を次の世代に残すために、対馬の人と自然が共に歩んでいけるように、少しでも力になればと思います。みなさま、どうぞよろしく願いいたします。

人の動き

野生動物の視点から交通事故を考える —交通事故現場検証の一例からみえてくるもの—

交通事故現場周辺の環境や野生動物の生活の様子を把握することは、効果的な事故対策を行う上でとても重要です。動物の視点から事故現場を見ることによって、その場所で事故が発生した背景が明らかになり、今後の野生動物にやさしい道路整備を考える上での参考とすることができるからです。ここでは最近の事故発生現場の検証例から、交通事故発生の背景について紹介します。



☆道路が生息地を分断している

道路が棲みかとなる山と、餌場となる水場とを分断しているため、多くの動物たちが道路を横断しなければならない状況でした。

☆動物が道路に侵入しやすい

吹付け法面やフェンスなどの遮断物がないため、動物がいたるところから道路へ侵入可能でした。道路脇には数多くの動物の糞や足跡、けもの道が確認され、動物たちが頻繁に道路を横断していると考えられます。



☆動物たちが排水管を利用して道路を横断している

分断された生息地を往復するために、動物たちが道路の下を通る排水管を通路として利用していました。しかし排水管の出入口がゴミで塞がった状態や、増水によって利用できない場合、動物たちは道路上を横断することを余儀なくされます。

☆道路を生活の場として利用している

道路は横断するだけでなく、時期によっては路上に出てくるカエルなどを捕らえるための餌場として、また谷から谷への移動の際にも道路上を歩くことが考えられます。

交通事故の発生には野生動物の生態や道路の構造上の問題など、さまざまな要因が重なっていることがわかりました。これらの問題を一つずつ理解・解決してゆくことが、より効果的な事故防止につながります。センターでは今後も関係機関と協力しながら、人にも、動物にもやさしい「対馬の道路」づくりを目指していきたいと考えています。

ツシマヤマネコ展 今年も開催します！



昨年のツシマヤマネコ展の様子

昨年度に引き続き、夏から秋にかけて「ツシマヤマネコ展」を開催します。昨年度は公民館や市役所で開催しましたが、今年度は温泉施設や空港など島内8ヶ所で開催します。

絶滅の危機にあるツシマヤマネコの生態や保護の取り組みをわかりやすく説明した展示パネルの他、ヤマネコの鳴き声が聞けるコーナーや、ヤマネコがどんなものを食べているのかがわかる糞分析コーナーなど、楽しい展示が盛りだくさんです。本物そっくりのツシマヤマネコのぬいぐるみも展示していますので、ぜひ遊びに来てください。夏休みの自由研究にもぴったりです！

開催日程	開催場所
7月13日(木) ~ 7月26日(水)	上対馬総合センター(上対馬町)
7月28日(金) ~ 8月 8日(火)	渚の湯(上対馬町)
8月11日(金) ~ 8月23日(水)	ほたるの湯(峰町)
8月25日(金) ~ 9月 5日(火)	豊玉文化会館(豊玉町)
9月 8日(金) ~ 9月19日(火)	湯多里ランド(美津島町)
9月21日(木) ~ 10月 5日(木)	対馬市役所(厳原町)
10月 7日(土) ~ 10月19日(木)	対馬市交流センター(厳原町)
10月21日(土) ~ 11月 2日(木)	対馬空港(美津島町)

遊びに来てね！



● センター自然ふれあいイベントへ行ってみよう！ ●

夜のホタル観察会

6月18日(日)、夜のホタル観察会を行いました。6月のホタルと言えば、川辺に漂うゲンジボタルの光が有名です。20時の日没とともに光りはじめるゲンジボタルのやわらかな光を楽しみました。



ツシマヒメボタル

対馬ではこの時期、もう一種類のホタルを楽しむことができます。世界で対馬にのみ分布し、山地に生息するツシマヒメボタルです。本土に生息するヒメボタルとは別種で、朝鮮に分布するパリボタルやウンモンボタルと近縁のホタルだそうです。ツシマヒメボタルは22時頃に出現のピークを迎え、線香花火のようにバチバチと激しい光を放ちます。この時期の対馬ならではの風情を楽しむ観察会でした。

今後のイベント案内

■ 自由研究相談会

とき：8月13日(日)・15日(火)

時間：開館時間中随時

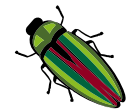
センター職員が夏休みの自由研究の相談を受け付けます。ヤマネコや対馬の自然についてお気軽にセンター窓口へお問い合わせ下さい。

■ 木エクラフト教室

とき：8月20日(日)

時間：13:00~14:30

センターの人気コーナー「ヤマネコ工房」の工作教室です。自然の素材を自分で集め工作を行います。



☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

8月 7日、14日、21日、28日

9月 4日、11日、19日、25日

10月 2日、10日、16日、23日、30日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第34号は2006年10月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季 刊 とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター
URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

鶏の被害相次ぐ。あなたの鶏小屋は大丈夫ですか？

秋も深まり、今年の春生まれのツシマヤマネコが親離れをする季節になりました。

寒くなるにつれて、野生動物による鶏被害が相次いでいるようです。冬場に鶏被害が多いのは、肉食の野生動物の餌となる動物が少なくなるためだと考えられます。

大事に育てられてきた鶏が襲われれば、飼い主のみなさんがそれを守ろうとするのは当然のことです。しかし、鶏を襲った動物を捕まえても、まわりにいるツシマテンやノラネコ、ノライヌ等他の動物が被害を引き起こす可能性は消えません。また、罠を仕掛けても、鶏小屋を襲った動物だけがかかるとは限りません。

大事な鶏が襲われることなく、人も動物も安心して暮らせるようになるには、罠による駆除ではなく、鶏小屋の補強や工夫がより効果的です。鶏のためにも、動物のためにも、そして卵ご飯を喜ぶお子さんやお孫さんたちのためにも、小屋の再点検をお願いします。

もう一度確認を！！

- 戸や餌入れがガタガタする。
- 戸や餌入れに鍵がついていない。
- 戸や餌入れの鍵を閉め忘れている。
- 板や釘が腐れて壁がめくれそう。
- 屋根と壁板・金網の境、枕木の間にすき間がある。
- 網がさびている。
- 線の太さが1mm以下で、緑色のビニールで覆われている金網を使用している。
- 金網に破れや穴がある。また、網の目の間が5cm以上ある。
- 小屋の下（地面から50cm程度）がトタンや板で目隠しされていない（高床式の小屋でない場合）。

いくつかチェックが付ききましたか？ 一でもあると、被害にあうおそれがあります。日頃からこまめに小屋の手入れをされている方でも、これらが原因で被害にあわれています。特に、寒い季節は被害が起こりやすいため、小屋の点検と補修・補強が大切です。



鶏被害対策リーフレットを発行しました！



対馬野生生物保護センターでは、鶏被害を防ぐ効果的な対策を考えるため、上県町佐護地区で鶏を飼われている方々にご協力いただき、被害の状況、小屋の造りや周囲の環境について調査を行いました。

調査の結果、被害の特徴として以下のことがわかりました。

- ① 12月から3月頃までの冬期に被害が集中している。
- ② 主に金網（特にビニールで覆われている1mm以下の金網）を咬み破ったり、戸のすき間から侵入する。
- ③ 小屋の下（地面から50cm程度）がトタンや板で補強されていない、あるいは高床式の小屋でない場合に、金網を咬み破られやすい

また、被害にあった小屋・あわなかった小屋の造りや工夫の違いを把握するとともに、鶏を飼われている方々が持つておられる被害対策の知恵やアイデアを学び取ることができました。リーフレットでは、これらの調査結果をもとに、野生動物が入り込みそうな箇所の改善案や補強・工夫の事例を示しています。リーフレットご希望の方は、センターまでお気軽にご連絡ください。なお、センターホームページにも掲載していますのでぜひご覧ください。



島守を育む ~身近な自然で対馬教育~

学校教育サポートリーフレット作成!



センターでは平成15年度から、対馬の自然を素材とした総合学習に取り組んできました。初年度は3つのモデル校にご協力いただきスタートした総合学習ですが、昨年度は15校から23件の総合学習の要請を受け、センターを活用していただきました。



対馬には、この島にしかない特有の自然・文化・歴史があります。大陸と日本間に位置する島という独自の環境で進化を遂げた動植物。長い年月をかけて創られた特殊な地形から生まれた風土・文化。太古の昔から人々が暮らし、大陸と

の外交の要として重要な役割を果たしてきた重厚な歴史。これらは誇るべき対馬の宝です。

センターでは、この宝物を子どもたちに伝え、対馬を誇りに思う子どもたちを育む教育を「対馬教育」と名づけました。対馬教育は、未来の対馬を担う子どもたちに、郷土を愛する気持ち、そして誇りと自信を育みます。対馬を愛し誇りに思う気持ちが、みんなが暮らすより良い対馬の未来をつくるために行動する原動力となるでしょう。

センターでは自然分野に関して、身近な対馬の自然を素材に対馬教育を行う学校のサポートを推進するためのリーフレット「島守を育む~身近な自然で対馬教育~」を作成し、島内各学校に配布しました。このリーフレットを見て、多くの学校がより気軽にセンターを利用し、ますます連携を深めていければと思います。リーフレットをご希望の方は、センターの窓口で配布していますので声をおかけ下さい。

HPも同時公開しました!こちらをご覧ください⇒<http://twcc.cool.ne.jp/shimamori/>

ツシマヤマネコ ニュース

交通事故に遭い保護され、10/6に野生復帰したヤマネコ



	月日	場所	年齢・性別	原因	備考
保護	9/30	上対馬町舟志	亜成獣・オス	交通事故	10/6 野生復帰
	10/3	上県町中山	成獣・オス	とらばさみ 錯誤捕獲	治療中
死体	10/18	峰町木坂	亜成獣・オス	交通事故	頭蓋骨等の骨折で死亡

秋になり、ツシマヤマネコの保護や死体発見が急増しています。交通事故は平成4年以降39件目で、うち34件が死亡事故です。10月から12月にかけて、仔ネコが親離れをする季節のため、交通事故に遭う危険性が増加します。運転をされる方は、スピードを落とし安全運転を心がけてください。また、万が一事故に遭ったヤマネコを

保護した、又は死体を発見した時は、対馬野生生物保護センターにご連絡下さい。

また、秋から春にかけては鶏小屋への動物の侵入が多くなる季節です。とらばさみを使用すると、今回のようにツシマヤマネコなどの動物が誤って掛かる場合があります。掛かった場合は動物に与えるダメージが非常に大きいため、とらばさみは使用しないようにお願いします。なお、鶏小屋への被害対策には小屋の補強等が一番効果的で、お勧めです。詳しくは今号の1面記事をご覧ください。

ツシマヤマネコ保全計画づくり 国際ワークショップ報告書完成!

平成18年1月9日から11日に開催された、国際ワークショップの報告書が完成しました。報告書(実費1500円)をご希望の方はセンターまでお問い合わせください。

今秋 



ツシマヤマネコの分散飼育が始まります

分散飼育の概要

ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、1996年から環境省と福岡市動物園が連携して飼育下繁殖に取り組んできました。2000年に初めて仔ヤマネコが誕生してからは毎年順調に繁殖し、育った20頭のヤマネコのうち8頭が対馬野生生物保護センターに里帰りをしています。これまで、対馬野生生物保護センターと福岡市動物園の2カ所で飼育下個体群の確立のためにヤマネコの飼育を行ってきましたが、今回新たに東京都武蔵野市の「井の頭自然文化園」と神奈川県横浜市の「よこはま動物園（ズーラシア）」でもヤマネコを飼育していただくことになりました。

なぜヤマネコを移動させるの？

～飼育下個体群を確立するために～

①危険分散

これまでのように繁殖で増えたヤマネコを2カ所のみで飼育し続けると、予期せぬ災害や感染症の蔓延などが起きた時、一度に多くのヤマネコを失う危険性があります。そこで、このような危険を回避するために、新たに飼育に協力して頂けることになった2つの動物園（以下飼育協力園）にヤマネコを移動（分散）します。

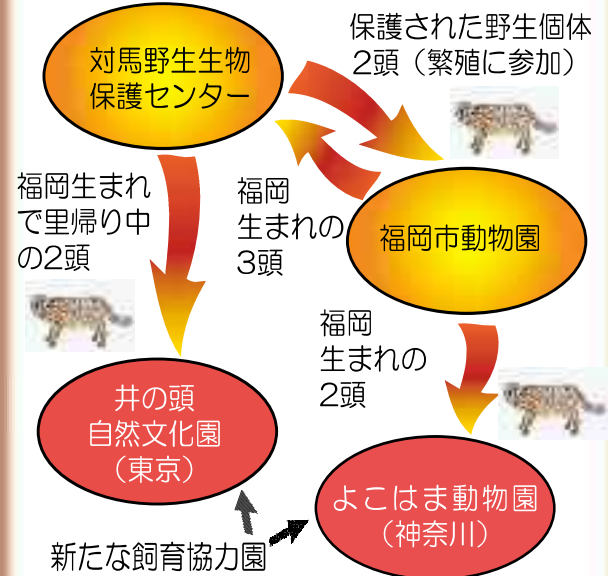
②飼育スペースの確保

繁殖が順調に進み、福岡市動物園と対馬野生生物保護センターでのヤマネコの飼育頭数も増えました。それに伴い、ヤマネコを収容できるケージが不足するという問題が発生しました。そこで、飼育協力園にヤマネコを分散し、飼育スペースを確保します。

③普及啓発

飼育協力園ではヤマネコを飼育する以外にヤマネコを始めとする対馬の自然のすばらしさについての普及啓発活動が行われます。全国的には、ツシマヤマネコが絶滅のおそれが高い事はあまり知られていないのが現状です。分散飼育を通じて、対馬の自然の象徴とも言えるツシマヤマネコについて多くの人に知っていただけることを期待しています。

今回のヤマネコの移動



※移動させる個体は人慣れを防止するために原則として非公開にさせていただきます。



飼育下個体群を確立する目的

- ①対馬の環境が改善し、生息地での安定した生息が可能になるまでの生息域外での種の保存。
- ②野生個体群の保護活動の補完（再導入）
- ③科学的データを収集・解析し、生息地でのヤマネコの保護対策に応用する。
- ④ツシマヤマネコの現状について全国に普及啓発を行うことで、野生個体群保護の推進に資する。

※詳しくは「とらやまの森31号」に記載しています。

市民参加の森づくり 2006 開催!

ツシマヤマネコ応援団 対馬野生生物保護センター 合同企画

対馬の自然に想いを寄せる市民の集まり「ツシマヤマネコ応援団」では、ツシマヤマネコの暮らす森「とらやまの森」再生プロジェクトに取り組んでいます。「市民参加の森づくり」では、なぜ今対馬で森づくりが必要なのかをみんなで一緒に考えながら、対馬の種子で対馬の植樹苗づくりを行います。この活動も3年目を迎え、来年3月には、初めての植樹を行う予定です。対馬の自然が好きな方、残したい方、森づくりに参加してみませんか?

とき: 11月19日(日) 13:00~16:00

佐須奈の食品館前で

場所: 上県町佐須奈 対馬市ヤマネコ保護支援センター

イ
ベ
ン
ト
内
容

- ①「とらやまの森再生プロジェクト」これまでの活動紹介
- ②どんぐり植え(ポット苗づくり)作業(お持ち帰りできます)
- ③舟志の森植樹地見学会(3月に植樹を行う場所を見学します)



※要申込み(0920-84-5577:対馬野生生物保護センター)・保険料として参加費100円
雨天中止・駐車場は上県支所、佐須奈地区体育館をご利用ください。

センター定例自然ふれあいイベント

夏休みのふれあいイベント報告

8月20日(日)開催の「木エクラフト教室」は、時間の都合により材料探しの自然観察のみとなりましたが、予期せぬ出会いがありました。前日の雨で程よく湿っていた遊歩道に、ツシマイマイを捕食中のアキマドボタルの幼虫が!

この他、ツシマムシやキクガシラコウモリも観察できました。雨上がりの自然観察、おすすめですよ。



アキマドボタルの幼虫は陸に棲み、マイマイの仲間を食べます。

開
催
の
イ
ベ
ン
ト
お
知
ら
せ

■野鳥の巣箱づくりに挑戦!

12月17日(日)10:00~14:00

午前中に巣箱を利用する野鳥の観察を行い、午後から野鳥の巣箱を作ります。作った巣箱はお持ち帰りいただきます。お家の近くで野鳥の仔育ての様子を観察してみませんか?

■油汚染から海鳥を守ろう!

1月21日(日)13:00~15:30

昨年冬に起きた海鳥の油汚染被害の報告と、この冬にむけて浜辺で被害海鳥を発見した際の対処方法について現地講習を行います。浜辺での油汚染海鳥発見にご協力ください!

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

- 11月 6日、13日、20日、27日
- 12月 4日、11日、18日、25日
- 年末年始 12月29日の午後、30日~1月3日
- 1月 9日、15日、22日、29日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからでもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。第35号は2007年1月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季 刊 とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

市民、ボランティア、企業、行政、みんなが参加する 「舟志の森づくり」スタート

寒さが一段と厳しくなり、ツシマヤマネコにとっては恋（繁殖）の季節となりました。ヤマネコが恋をし、餌を捕り、休み、そして仔育てをするにしても、対馬の森林はヤマネコにとって最も重要な生息環境です。ヤマネコが安心して暮らせる森というのは、私たちにとっても、他のいろんな動物たちにとっても豊かであることを意味しています。

市民ボランティアグループ「ツシマヤマネコ応援団」では、2003年秋からとらやまの森再生プロジェクトを立ち上げ、「ツシマヤマネコをはじめとする対馬の自然と共に生きる森づくり」として、どんぐりの苗づくりを行ってきました。

その中で、育てた苗を「どこに植えるか」という植樹地の問題に悩まされてきましたが、2007年から対馬市上対馬町舟志区にある住友大阪セメント株式会社（本社：東京都千代田区）の所有する約16haの森林（以下、舟志の森）を植樹地として使わせていただけることになりました。

舟志の森は、セメントの副原料である粘土を採取する目的で1989年に同社によって買収されました。しかし、セメント需要の減少や粘土に代わる原料の利用拡大等により粘土は採取されず、開発は凍結されました。植樹地を探す中、地元舟志のツシマヤマネコ応援団の会員からの発案がきっかけとなり、舟志区、ツシマヤマネコ応援団、対馬市、住友大阪セメント株式会社が協働しながら森づくりを推進していくことになりました。

今後、舟志の森づくり推進委員会を立ち上げ、「森林管理を進めることで、森林の質を向上させ、ツシマヤマネコをはじめとする対馬の野生生物の保全に取組み、人と自然が共生するモデル林を確立すること、また、市民、企業、行政、ボランティア団体の協働を通じて、森林保全及び野生生物保全に対する意識の向上を図ること」を目的に舟志の森づくりを進めていきます。



舟志の森位置図

舟志の森づくり植樹祭 開催!

開催日時：2007年3月25日（日）午前中

集合場所：舟志小学校跡地

※要申込み（申込先：0920-84-5577 対馬野生生物保護センター）

※イベント保険料として参加費100円。少雨決行

舟志の森づくりの一環として、植樹祭を開催します。植樹祭が行われる場所は、舟志の森の中でも特にスギやヒノキが密生していた場所で、皆伐を行った後、ツシマヤマネコ応援団が育ててきた広葉樹の苗を植樹します。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。



応援団が育ててきた広葉樹の苗

ツシマヤマネコニュース！ 年度の交通事故死亡数が過去最多と並ぶ...

ツシマヤマネコの交通事故が頻発しています。9月に入ってから7件の交通事故が発生し6頭が交通事故の犠牲になりました。これは年度毎の交通事故による死亡数では過去最多記録と同じ頭数です。これらのヤマネコはすべて親離れまでこぎつけることができた健康

原因	区分	町	収容日	年齢	性別	備考
交通事故	保護	上対馬舟志	2006/9/30	亜成獣	オス	06/10/6に野生復帰
	死亡	峰町木坂	2006/10/18	亜成獣	オス	
	死亡	峰町三根	2006/11/1	亜成獣	メス	
	死亡	上県町深山	2006/11/12	亜成獣	オス	
	死亡	上県町深山	2006/11/18	亜成獣	オス	
	死亡	上対馬町大増	2006/12/25	亜成獣	メス	
	保護	上対馬町小鹿	2007/1/9	亜成獣	オス	07/1/10死亡
錯誤捕獲	保護	上県町飼所	2006/12/18	亜成獣	オス	とらばさみ。07/2/5野生復帰
	保護	上対馬町芦見	2007/1/3	亜成獣	メス	箱わな。07/1/17野生復帰
	保護	上県町佐護	2007/1/7	成獣	オス	鶏小屋。07/1/17野生復帰

な個体であっただけに悔まれます。交通事故について詳しくは次のページをご覧ください。

また、とらばさみによる錯誤捕獲も続いています。とらばさみの使用はヤマネコだけでなく、そのほかの動物も無差別に傷つけてしまいます。鶏小屋被害を防ぐためには小屋の補強が最も効果的です。お悩みの方はセンターまでご一報ください。

海鳥の油汚染再び...

⇒今年度初確認された油汚染を受けたシロエリオオハム。黄色い油が左側に付着していました。



昨年1月から3月に発生した海鳥の油汚染が今年も発生しています。今年最初の確認は、1月19日で場所は上県町佐護湊でした。21日には佐護湊でもう1羽、厳原町阿連でも1羽が確認されました。

さらに、1月31日、2月1日には厳原町小茂田で死体(計2羽)が回収されました。2月から3月にかけては越冬のために対馬近海にアビ類が多くやってきます。

昨年度は114羽の油汚染被害鳥が確認されました。今年も、島内のボランティアのみなさんと協力しながら、実態調査を続け、汚染源の特定のための資料を集めたいと思います。油汚染に遭った海鳥を見た方、そして調査にご協力いただける方は、センターまでご連絡ください。TEL:0920-84-5577 (担当:木村)

オジロワシ野生復帰

1月8日上対馬町河内湾でオジロワシが海に落ちて飛びたてなくなっているところを救助したと連絡を頂き、センターに保護しました。体重4.8kgの立派な成鳥でした。保護直後は衰弱していましたが、次第に体重も増え回復しました。保護から3週間後の1月22日、無事に佐護平野で放鳥することができました。

最初はびっくりしている様子でしたが、少し後ろから促すと、見事に約2mもの大きな翼をひろげて飛んでいきました。センター開所以来、初めてのオジロワシ保護でしたが、無事に帰すことができ、職員一同胸をなでおろしています。

⇒海に落ちたところを保護され、野生復帰したオジロワシ。対馬には毎年冬にやってきます。





交通事故発生地点MAP



今年度も秋から冬にかけてヤマネコの交通事故が多発しています。2月1日までに7件の交通事故が発生（うち6件は死亡事故）し、死亡件数としては過去最悪を記録しています。これからの時期、ヤマネコたちは繁殖期を迎え行動が活発になります。そのため道路を横断する回数も増えることが予想されますので、運転にはくれぐれもお気をつけください。今回は実際に事故が起こった現場の写真も掲載しました。

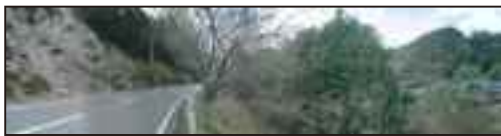
2006/11/18 上県町深山
オス 亜成獣 死亡



2006/12/25 上対馬町大増
メス 亜成獣 死亡



2006/11/12 上県町深山
オス 亜成獣 死亡



2006/9/30 上対馬町舟志
オス 亜成獣 保護→野生復帰



**ヤマネコにやさしいトンネル
上県町志多留～田の浜**

2006/10/18 峰町木坂
オス 亜成獣 死亡



2007/1/9 上対馬町小鹿
オス 亜成獣 保護→死亡



2006/11/1 峰町三根
メス 亜成獣 死亡



対馬野生動物交通事故対策連絡会議を開催！ ～イリオモテヤマネコの対策を参考に～



西表島でのゼブラゾーン

2月1日に、長崎県が主催する「対馬野生動物交通事故対策連絡会議」が開催されました。この会議は、県や市の道路部局等の行政関係者が参加し、ヤマネコをはじめとする対馬の野生動物の交通事故対策を検討するものです。今回は沖縄県の行政担当者を講師に招き、動物たちが道路の下を通るためのトンネルや、事故発生地点でのゼブラゾーン設置などの西表島での先進事例を紹介していただきました。今後、対馬での交通事故対策を考える上で参考になるものも多く、今後の取り組みに活かしていきたいと思ひます。

対馬でもヤマネコにやさしいトンネル施工中！

対馬でもヤマネコたちにやさしい道路づくりが進められているところがあります。場所は上県町志多留～田の浜の峠（上のMAPの☆印の地点）です。大学などが調査した結果、この峠をヤマネコが頻繁に行き来していることがわかりました。そこで交通事故が起きないようにトンネルを設置し、トンネルの上をヤマネコが通れるように配慮しました。このような、動物に配慮された開発が今後も続くよう、連絡会議で関係機関との連携を進めたいと思ひます。



ヤマネコがトンネルの上を渡ります

市民参加の森づくり 2006 イベント報告

11月19日(日)に、ツシマヤマネコ応援団との合同企画で森づくりのためのポット苗をつくる「市民参加の森づくり 2006」を開催しました。当日は約3000個のどんぐりを1500個のポットに播きました。どんぐり植え作業の後は、舟志の森の植樹地の見学をおこない、雨上がりでしっとり潤った森で、最盛期の紅葉を楽しみました。<関連記事1ページ>



1500個のポットと参加者

紅葉の舟志の森を歩く



センター定例自然ふれあいイベント

12月17日(日)は、午前中に野鳥の観察を行い、午後から巣箱づくりを行う「野鳥の巣箱づくりに挑戦！」イベントを開催しました。野外観察ではヒヨドリやメジロといった身近な鳥から、棹崎の主、ハヤブサまで登場。巣箱を利用するシジュウカラやヤマガラ、キツツキの仲間のコゲラも観察することができました。午後からの工作で完成した巣箱はお家の近くにかけて、野鳥の子育てを見守ります。子育ての始まる春が待ち遠しいですね。



1月21日(日)には、昨年度対馬近海で起こった油汚染の対策を今年も進めるために、「油汚染海鳥を救おう！」イベントを、スライドを用いたレクチャーと野外観察の2部構成で開催しました。たった500円玉程度の油付着でも、そこが注ぎ口となって水没してしまう話や、油まみれの鳥の画像、野外では実際の油汚染被害海鳥を目の当たりにし、参加者のみなさんは陰しい表情を見せていました。

磯漁をされている方からは、やはり磯に油のかたまりが漂着しているのをみかけるという情報をいただくなど、有意義な意見交換も行うことができました。<関連記事2ページ>

イベント 初春の

❀ 棹崎冬の野鳥観察会

2月18日(日) 13:00~14:30
棹崎公園で冬に見られる野鳥を観察します。ツバキ園地には密を吸いにメジロやヒヨドリが集まります。身近な鳥から野鳥観察を始めてみませんか？

❀ 棹崎春の植物観察会

3月18日(日) 13:00~14:30
棹崎公園にて、ゲンカイツツジやスミレの仲間を中心に、初春に見られる植物を観察します。春を探しにでかけてみませんか？

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

- 2月 5日、13日、19日、26日
- 3月 5日、12日、19日、26日
- 4月 2日、9日、16日、23日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからでもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。第36号は2007年4月発行の予定です。

季 刊 とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

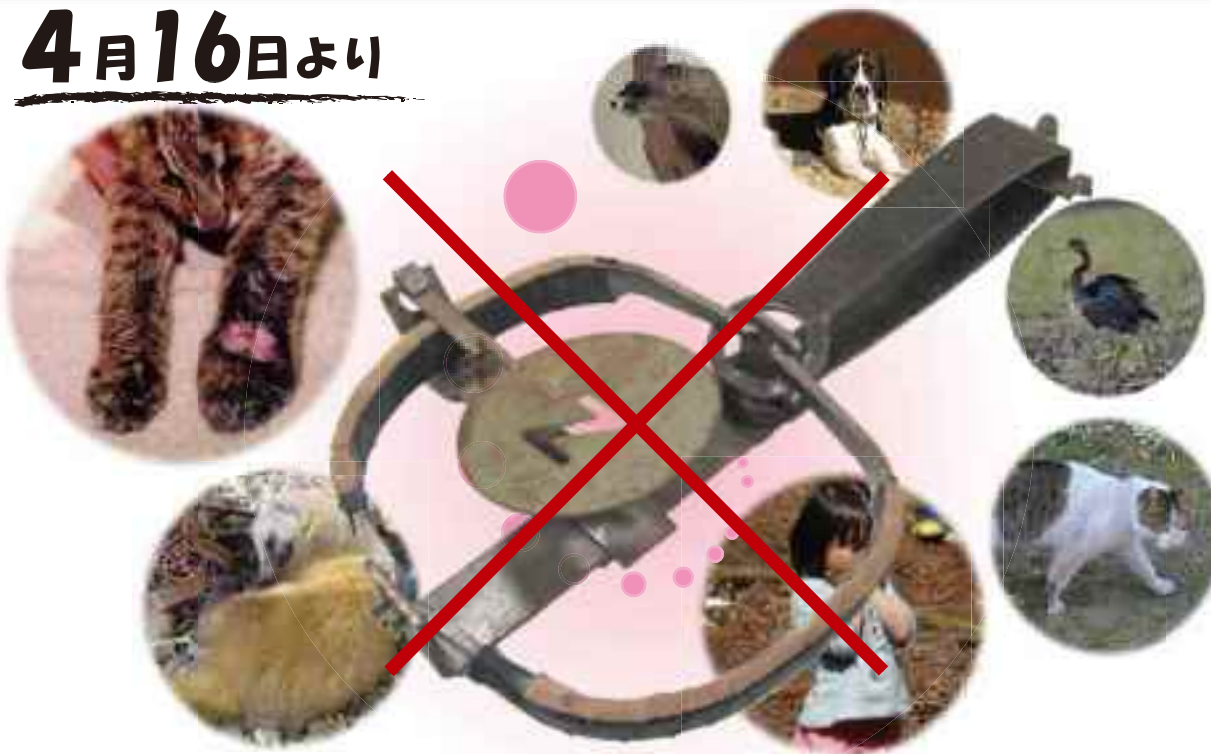
電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

とらばさみの使用ができなくなりました。

4月16日より



守ってあげたいたくさんさんの命

とらばさみは、動物を無差別に捕獲し、かつ大きな苦痛を与えて殺傷させてしまう猟具です。野生動物だけでなく、人や飼われているイヌやネコなどがかかることもあり、ご近所問題にもなりかねません。

そのため、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律施行規則」、そして長崎県の「第10次鳥獣保護事業計画」が改正され、4月16日より野生鳥獣の捕獲を目的としたとらばさみの使用ができなくなりました。ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

【とらばさみに関するお問い合わせ】

環境省対馬自然保護官事務所 TEL: 0920-84-5577 (佐々木)

長崎県対馬地方局総務課 TEL: 0920-52-1311 (清永)

対馬市観光交流課自然共生班 TEL: 0920-53-6111 (玖須)



ニヤ ヌー スコ

3月30日に死亡事故発生

H19年3月30日、上対馬町河内の路上で交通事故により死亡したオスのヤマネコが発見されました。H18年度の交通事故は8件目で、H14年の過去最悪記録に並んでしまいました。

5月に福岡で出産予定

今年も福岡市動物園ではヤマネコの飼育下繁殖が行われています。昨年の11月に対馬から移送したMm-13とFk-26も繁殖に参加しており、うまくいけば5月5日頃に出産予定です。

ツシマヤマネコと共存する地域づくり座談会



思わず前のめり（舟志地区）

環境省「共生と循環の地域社会づくりモデル事業」の一環として、今年3月に上対馬町舟志地区、上県町佐護地区で座談会を開催しました。テーマはツシマヤマネコをはじめとする地域の自然を残しながらこれからも対馬ですっと暮らしていくための地域のあり方を考えることでした。

舟志地区では、里地里山の暮らし、食と農、地域の魅力発見の3つのグループに分かれて議論が行われました。その中で、自然のリズムと共にあった舟志地区の伝統的でやさしさがあふれる暮らしの営みを知ることができました。座談会後の交流会では、地区の住民自らが積極的に変わっていかようと呼びかける声も上がりました。佐護地区では、里地里山の暮らし、そして食と農の2つのテーマで話し合いが行われました。里地里山では、「千俵蒔山の野焼きを復活させたい」という具体的な提案がありました。食と農のグループでは「佐護といえば稲作、美しい田んぼの風景を守るためにも持続的に農業が営まれるようにしたい」という思いがまとまりました。センターでは今年度も2地区での座談会を続け、夢の具体化を目指します。



地域のためになることを、地域住民の手で（佐護地区）

人の動き

センターではこの4月に3名の職員の交代がありました。毎日一緒に仕事をしてきた仲間との別れ、そして新たな職員との出会いを経て、心新たに新年度をスタートしています。

檐山 智嗣（環境省事務補佐員、調査研究担当）

あつという間の3年間でした。この仕事を通じて出会った多くの方々に感謝いたします。センターを離れるにあたり、これからも地域の方々と共にあるヤマネコセンターであって欲しいと思います。ありがとうございました。

木村 朗子（環境教育担当）

野鳥に魅せられてやってきた対馬でしたが、3年間を振り返るとお世話になった地域の方々のお顔と、感謝の気持ちばかりが浮かびます。みなさんに育てていただいた恩を返さないまま島を去るのは心苦しい限りですが、遠くからいつも対馬を応援しています！

朝倉 みづほ（ヤマネコ飼育担当）

半年間の予定で始まった私の対馬ライフ。一年半居ることができ、3倍楽しむことができました。「半年間」では出来なかった体験、出会うはずの無かった人たちとの出会い。宝物です！対馬よ！ヤマネコたちよ！呼んでくれてありがとう。

上山 剛司（環境省事務補佐員、普及啓発・環境教育担当）鹿児島県出身

7年ぶりに戻ってきた九州。場所はツシマヤマネコがすむ国境の島・対馬。昨年、実習で来島した際に感じたセンターの方々の熱さと島独自の自然環境や文化、風土にひきつけられ、ノコノコと流れてきてしまいました。地域の皆さんが少しでもヤマネコに魅力を感じて下さるような環境教育プログラムを展開していきます。

大谷 雄一郎（普及啓発・環境教育担当）栃木県出身

はじめまして！対馬にはツシマヤマネコをはじめ珍しい動物や植物がたくさん見られることを知りました。今はまだ勉強不足でわからない事ばかりですが、これから勉強して対馬の自然を残せるように頑張っていきたいと思います。

神宮 有梨奈（ヤマネコ飼育担当）対馬市上県町出身

はじめまして。4月から飼育員として働かせていただいている神宮です。飼育員の仕事はとても重要でやりがいのある仕事だと思います。一日でも早く仕事を覚えられるようにがんばります。よろしくお願ひします。

ありがとうございました

よろしくお願ひします

2006年度 海鳥油汚染被害状況

2006年の2月から3月にかけて、対馬近海で114件の海鳥油汚染被害が発生した事件を受けて、2007年も1月から3月にかけて状況把握のための漂着物調査を行いました。
 ※昨年の被害詳細はとらやまの32号をご参照ください。

今回は1月19日に上県町佐護湊にて発見されたシロエリオオハムが最初の被害確認となりました。早朝の発見により、昨年を上回る被害が予想されましたが、最終的に29件の海鳥の被害が確認されました。

西海岸で被害が多く確認され、被害に遭った鳥の種類もアビ類が主となり昨年と同様の傾向が見られましたが、今回は今まで確認されていなかったカイツブリ類の被害が新たに確認されました。

表 状況別海鳥被害件数一覧

状況別	計(件)
油汚染個体の目撃	19
保護	0
死体回収	10
被害合計	29

今回も対馬市民を中心に島内外の多くのボランティアの方々にご協力いただきました。今回は救護がなかったこともあり、状況把握調査と漂着油・廃油缶の回収が主な活動となりました。皆様どうもありがとうございました。



漂着ドラム缶回収作業。放置すると中の油が海に流出してしまいます。



前回同様、被害の多かったアビ類(写真はアビ)



新たに被害確認されたカムムリカイツブリ

凡例

- 油汚染鳥の目撃
- 油汚染鳥の死体
- 油類の漂着

舟志の森植樹祭開催!

3月25日、春の心地よい日差しの中、「とらやまの森再生プロジェクト 舟志の森植樹祭」が開催され、市民等約120名が参加しました。



大きくなってね!

植樹祭では、舟志にある約0.15haのスギやヒノキの伐採跡地に、ツシマヤマネコ応援団が育ててきたコナラ、アベマキ、マテバシイ、クリなどの広葉樹の苗を約200本植樹しました。芽吹き始めた植樹苗の成長が楽しみです。舟志の森には舟志のみなさんが作成した立派な案内板が設置されていますので、是非お立ち寄りいただき、苗の成長を見守ってあげてください!

春の植物観察会 報告

3月18日(日)、棹崎公園にてスミレの花を中心とした、早春の植物観察会を行いました。今回のメインは、日本では対馬にのみ咲くナンザンスミレです。ナンザンスミレは少し木陰になる林道脇などで全島で見られるスミレですが、地域変異があり、下島ではピンク色、上島では白色の花が観察できます。

当日はちょうど見頃を迎えたナンザンスミレの群生を観察することができ、対馬の春を満喫する観察会となりました。



▲切れ葉が特徴のナンザンスミレ

2007年度 上半期 センターイベント 一覧

日時	イベント名	内容
5月20日(日) 13:00~15:00	むしの観察会	棹崎公園を探索して、たくさんの自然を見つけよう! ツシマカブリモドキなど対馬でしか見られない昆虫を探そう!
6月17日(日) 13:00~15:00	ヤマネコ・ビンゴ!	ビンゴゲームをしながら、楽しくヤマネコについて勉強しよう! 自然の中でのヤマネコの役割とは・・・?
7月15日(日) 19:00~20:30	夜のわくわく散歩道	ヤマネコが暮らす夜の森を一緒に歩いてみませんか? きっと、昼間ではあうことができない生き物が待っているよ!
8月4・25日(土) 開館時間中	自由研究お助け隊!	センター職員による夏休みの自由研究相談を開催します。 ヤマネコや対馬の自然について、一緒に考えてみよう!
8月5日(日)10:00~14:30 8月12日(日)10:00~12:30	-開館・10周年特別企画- ヤマネコ博士学校	痕跡調査編(8/5)→ヤマネコの糞を探して、何を食べているか調べよう! 追跡調査編(8/12)→ヤマネコ追跡グッズを使って、追跡ゲームをしよう!
8月19日(日) 13:00~15:00	Natureクラフト教室 「ヤマネコ工房」	センター人気コーナー「ヤマネコ工房」を今年も開催します。 自然の素材を使ってオリジナルなクラフトを完成させよう!

※ 各イベントとも要申し込み、センター集合受付、野外観察は雨天中止、保険料として参加費100円です。

※ 詳しくはセンターHPか、公民館・役場・学校に掲示のセンターイベントポスターをご覧ください。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

5月 7日、14日、21日、28日

6月 4日、11日、18日、25日

7月 2日、9日、17日、23日、30日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第37号は2007年7月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577


ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp


対馬の宝、旧6町すべてで生息を確認！

— ツシマヤマネコ、下島で23年ぶりに発見 —



 長崎県が厳原町内山地区に設置していた自動撮影カメラに、下島では実に23年ぶりにヤマネコが撮影されました。環境省と長崎県は、下島にヤマネコが生息していないか長年調査を続けてきました。しかし、23年間にわたって発見できず、関係者の間では、「下島では絶滅してしまったのではないかと心配していた矢先の出来事でしたので、関係者一同びっくりしています。対馬の宝であるヤマ

ネコが、旧6町すべてに生息していることが確認されたことは大変すばらしいことです。

 自動撮影カメラには赤外線センサーがついていて、カメラの前を動物が通ると、自動で撮影できる仕掛けになっています。今回撮影されたのは3月2日の夜で、健康状態のよい成獣が写っていました。右耳の後側に白い斑点があること、体に不明瞭な斑点模様があり、胴長短足であること、太くて長い尾を持っていることなど、ヤマネコの特徴がはっきりと分かる写真でした。残念ながら性別まではわかりませんでした。今後、環境省、長崎県、対馬市で連携して、下島でのヤマネコの生息状況を調査していきたいと考えています。

下島のヤマネコ情報、大募集！

センターでは「下島で最近ヤマネコを見た」という情報を大募集しています。今後、下島の調査を進めていくために、また、保護の対策を考えていくためにも重要な情報になります。「ひょっとしたらヤマネコだったかも」という内容でもかまいません。センターまでお気軽にお電話ください。また、島内に目撃情報を集めるポストも設置します。皆様の情報をお待ちしています！

下島でヤマネコの撮影に成功した自動撮影カメラ →



名前は『つつじ』に決まりました！

長い間、皆さまに親しまれてきましたヤマネコの広報部長「つしまる」でしたが、体調不良のため引退し、6月4日の夜に残念なことにこの世を去りました(詳しくは3ページ参照)。「つしまる」が引退したことで代役として指名されたのが「つつじ」です。「つつじ」は、2002年9月23日に上県町田ノ浜で琉球大学の調査のため捕獲されたメスのヤマネコです。その時の検査でFIV(ネコ免疫不全ウイルス。通称ネコエイズ)に感染していることがわかり野生復帰を断念し、当センターで飼育することになりました。



2007年3月8日に一般公開を開始しましたが、現在のところFIVの発症はみられず、高齢であるにもかかわらずきわめて健康です。性格はおっとりマイペースです。何事にも動じない肝っ玉母さんで、他の飼育ヤマネコたちの癒し系として安らぎを与えるような存在です。午前中はうろうろとケージ内を見回る姿も観ることができますが、午後からは小屋の中のワラの上でぐっすり寝てますので観察に来られる際には午前中がお勧めです。

「つつじ」の名前の由来は公開開始の3月8日がゲンカイツツジの咲く頃と同じ時期ということと、対馬市の花がゲンカイツツジということにちなんで応募者の中の4名の方が考えてくださいました。ありがとうございました。また、たくさんの素晴らしい名前を考えてくださった皆様にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

お騒がせヤマネコのトモオ、3頭のパパになる



← 交通事故などを経て、現在は福岡市動物園で暮らすトモオ

福岡市動物園では、今年の春もツシマヤマネコの赤ちゃんが3頭生まれました。今年は、昨年にセンターから福岡市動物園に新たな血統として導入されたオスのヤマネコの「トモオ」が繁殖に参加し、5月9日(水)の11時30分頃にNo.13との間に無事に3頭の仔ヤマネコが生まれました。

トモオはろうきんブックレット「ツシマヤマネコ - 対馬の森で、野生と共存するために」の冒頭に登場するヤマネコで、最初は交通事故、その後は鶏小屋に入りセンターに3回も保護されたヤマネコです。ヤマネコのおかれている現状、そして地域とヤマネコとの共存について、私たちに様々なことを教えてくれたトモオですが、これからはパパとしての活躍に期待したいと思います。

今年も佐護中から職場体験に来てくれました。

海老名 春希君(2年)からの感想

今日、職場体験をして一番楽しかったことは、ヤマネコのフンを探しに行ったことでした。けれど、ヤマネコのフンはあったけど少し古かったのが残念だなと思いました。その他にヤマネコの部屋のそうじやヤマネコのフンの調査をしたり、センターの中を見回り、生物のちりょう室を見たりしました。ヤマネコのフンの調査では、フンの中に入っていた毛を見れて良かったです。

センターの中の見回りでは、ヤマネコの生存を確にんするためのカメラをはじめと見ました。今日はとてもいい経験ができてよかったです。



← センター職員に指導してもらいながら、ヤマネコの検査を行う海老名君

追悼特集

2007年6月4日、残念ながら長い間みなさんに親しまれてきた「つしまる」が死亡しました。

あいかとう！つしまる



●「つしまる」プロフィール

性別:オス 年齢:不明(推定9歳以上) 体重:約3.5kg 全長:82cm 尾長:28cm

2000年12月20日、上県町友谷で保護され、FIV(通称ネコエイズ)に感染していることがわかり、その後センターで飼育をしてきました。

死亡までの経過

平成15年12月9日からセンターで一般公開していたツシマヤマネコの「つしまる」が、平成19年6月4日に残念ながら死亡しました。

「つしまる」は今年の1月末から食欲不振や腰のふらつきなどの症状が見られ、一般公開を休止し、センター内の別の施設で治療をしていました。

「つしまる」がこのような状態になった原因は分かりませんが、どこからか飛び降りた拍子に腰を痛めたのかも知れません。老齢になると、このようなことが起きることがあります。その後、体調は回復傾向にありましたが、老齢であることも考慮して一般公開を引退することになりました。

引退後は、体調がよくなったり、悪くなったりを繰り返していましたが、5月の半ばごろから徐々に体調が悪化。食欲不振が続き、治療の甲斐なく、6月4日の夜に眠りながら息を引き取りました。死亡した原因については、現在東京大学に依頼し究明中です。FIV(通称ネコエイズ)が発症していたかについても検査を行う予定です。

「つしまる」が残したもの

世界で初めて、生息地对馬で一般公開されたツシマヤマネコが「つしまる」です。対馬の島民でさえ、実際にツシマヤマネコを見たことがあるという人が少ないという現状の中で、「つしまる」は約3年半という長い間、「ツシマヤマネコはこんな動物なんだ！」という感動と、ツシマヤマネコがおかれている厳しい現状をたくさんの人に伝えてくれました。

今、大きな務めを終え安らかに眠りにつきた「つしまる」ですが、ツシマヤマネコ保護に大きく貢献してくれたことに感謝しています。



立木の上で気持ちよさそうに昼寝をする「つしまる」。このような姿をよく見せてくれました。

現在は、「つしまる」に替わり、「つつじ」を公開中です。会いに来てね！



舟志の森でやまねこ音楽祭♪



ツシマヤマネコをはじめとする対馬の生き物との共生を目指す「舟志の森づくり」と舟志地区を応援するために、8月11日（土）に和太鼓、ジャズ、盆踊りのセッションが行われます。会場となる旧舟志小学校は赤い屋根が目印の舟志のシンボリックな建物です。真夏の夜に、一緒に音楽を楽しみ、ツシマヤマネコの歌を作ってみませんか？

会場：旧舟志小学校（駐車場あり）
 上対馬町舟志、赤い屋根が目印
 時間：18:30～22:15（終了予定）
 参加費：1500円（1ドリンク付き）
 お申込・お問合わせ
 対馬市観光交流課 0920-53-6111（担当：玖須）
 上対馬支所地域振興課 0920-86-3111（担当：園田）



センター・イベント情報

さあ、外に
でかけよう！

6月 自然ふれあいイベント ～ヤマネコ・ビンゴ！～

6月17日（日）は「ヤマネコ・ビンゴ！」を開催しました。参加者は12名と大盛況でした！参加者1人1人にセンターオリジナルのヤマネコ・ビンゴカードを配布し、センター内の展示物などを使って、問題を出题しました。

ビンゴが2つ出来たら、ヤマネコ・メダル(写真)をプレゼントしました。ゲーム感覚でヤマネコの特徴を学べるとあって、家族全員が一緒に楽しめる「自然ふれあいイベント」となりました。



↑たくさんメダルを取ったよ！

今後のイベント予定

- ◆7月15日 19:00～20:30
「★夜のわくわく散歩道★」
- ◆8月4・25日 開館中随時
「自由研究お助け隊！」
- ◆8月5日 10:00～14:30
「-開校・ヤマネコ博士学校- 痕跡調査編」
- ◆8月12日 10:00～12:30
「-開校・ヤマネコ博士学校- 追跡調査編」
- ◆8月19日 13:00～15:00
「Natureクラフト教室」

* 詳細は、センターまでお問い合わせください。

ヤマネコ教室

ヤマネコ教室とは…
 センターの展示物や身近な自然などを利用して、子供たちに楽しくヤマネコを知ってもらう学習プログラムです。ヤマネコ教室はセンターでも学校でも開催可能です。興味のある先生はセンターまでお問い合わせください。

何のうんこを見つけたのかな？

ヤマネコの糞を発見したよ！

4～6月の利用校

- ◆南陽小学校
- ◆大船越小学校
- ◆厳原小学校
- ◆南小学校
- ◆豊小学校
- ◆久原小学校

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

7月 2日、9日、17日、23日、30日
 8月 6日、13日、20日、27日
 9月 3日、10日、18日、25日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからのご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。第38号は2007年10月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

上半期イベント報告

開館10周年イベント ヤマネコ博士学校!



痕跡編

↑ヤマネコの糞を調べたよ!



追跡編

↑ヤマネコ博士に認定されたよ!

2007年上半期、センターではたくさんのイベントを行いました。今年はセンター開館10周年ということもあり、ヤマネコの研究をなさっている檜山氏を講師に招いて、ヤマネコ博士学校を開校しました。痕跡編、追跡編の2つのコースを実施し、6名のヤマネコ博士が誕生しました!

誕生したヤマネコ博士

(敬称略)

- 古本 裕雅
- 古本 敏栄
- 百合野 真央
- 百合野 寿美子
- 久保 賢太郎
- 久保 昭信

ヤマネコ教室 報告

2007年4月から9月までに、センターのヤマネコ教室を利用いただいた学校・団体は13校、2団体でした。本当に多くの方々にご利用いただきました。ありがとうございました。

2学期もたくさんの学校や団体の方々にヤマネコ教室を利用していただけたいと思います。ヤマネコ教室に関するお問い合わせは下記の方までご連絡ください。

(TEL: 0920-84-5577【担当: 上山/大谷】)

↓久田小学校3年生のみんな!



7~9月利用校

- ◆ 豊玉小学校
- ◆ 久田小学校
- ◆ 比田勝小学校
- ◆ 佐護小学校
- ◆ 福岡エココミュニケーション専門学校
- ◆ 対馬市小学校理科部会

2学期も



2007年度 下半期 センターイベント一覧

日時	イベント名	開催場所	内容
10月21日(日) 10:00~14:00	秋の内山盆地ハイク! 講師: 柚木 修氏	鮎戻し公園	プロ・ナチュラリストが案内する秋の内山盆地! みんなはどんな秋を見つけられるかな? *お弁当持参!
11月25日(日) 13:00~15:00	わくわく痕跡ハイク!	野生生物保護センター	ヤマネコやテンが暮らす森を歩いて、動物たちの痕跡を探そう!何を食べているか「うんち」の中身を調べてみよう!
12月16日(日) 13:00~15:00	牛乳パックで エコ年賀状!	豊玉地区公民館	飲み終わった牛乳パックを使って、自分だけのオリジナル、エコ年賀状を作ろう!
1月25日(日) 13:00~15:00	どうぶつのお家作り!	野生生物保護センター	利用する動物が使いやすい巣箱をみんなで作ってみよう! みんなが作った巣箱にはどんな動物がやってくるかな?
2月16日(日) 13:00~15:00	海鳥救護 エコキャンドル!	厳原地区公民館	家庭から出た廃油を使って、エコキャンドルを作成しよう! 対馬の海でおきている海鳥の油汚染についても勉強しよう!
3月23日(日) 10:00~12:00	春の植物観察会 講師: 國分 英俊氏	野生生物保護センター	植物の専門家である講師が案内する対馬ならではの春の植物観察会!一緒に対馬の春を探してみよう?

◆各イベントとも要申し込み、15分前から受付開始、参加費200円(保険料)です。雨天の場合は屋内で実施!

◆詳しくはセンターHPか、公民館・役場・学校に掲示してあるセンター・イベントポスターをご覧ください。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

- 10月 1日、9日、15日、22日、29日
- 11月 5日、12日、19日、26日
- 12月 3日、10日、17日、25日
- 年末年始 12月29日の午後、30日~1月3日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第39号は2008年1月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季 刊 とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

祝！センター開設 10 周年

野生生物保護センターは、絶滅のおそれのある野生生物を守るための拠点施設で、北は釧路湿原から、南は西表島まで、全国9ヶ所に設置されています。

そのうち、対馬野生生物保護センター（以下、TWCC）は、ツシマヤマネコをはじめとする対馬の野生生物の保護拠点として、1997年7月31日に開設されました。以来、TWCCでは、対馬の豊かな自然のシンボルであるツシマヤマネコを守ることは、対馬の自然を守ること、自然と深くつながっている対馬の暮らしを守ることであるという



活動理念のもと調査研究、普及啓発、野生動物の救護、飼育管理などに取り組んできました。

この10年間にTWCCを訪れた人は127,757人。TWCCに運ばれてきたツシマヤマネコの保護個体は延べ42頭（うち8頭は収容後に死亡）、死体54頭。動物園で繁殖し、無事に成長しているツシマヤマネコは23頭。保護活動に関わった島民のみなさん、島外の専門家、動物園、学生、NPO、企業は数知れず。TWCCは、ツシマヤマネコを介して実に多くの人と出会い、刺激を受け、支えられながら成長してきました。10年間、本当にありがとうございました。

10年後、TWCCはより活気づき、ヤマネコの救護も死体の収容もほとんどなくなり、ヤマネコ見たさにたくさんの観光客が訪れ、野生生物に配慮した農林水産物が高く売れるなどして、対馬もヤマネコも元気になる。そうなることを夢見ながら、これからも頑張っけてゆきたいと思えます。今後もよろしくお願ひします。

◆◇TWCC 開設以降の主な出来事◇◆

年	主な出来事	年	主な出来事
1997	<ul style="list-style-type: none"> ■対馬野生生物保護センター開設(7月) ■ツシマヤマネコの全島的な分布・個体数の調査(第2次生息状況調査)の実施。ツシマヤマネコ生息頭数を70~90頭と推定 	2003	<ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアグループ「ツシマヤマネコ応援団」設立(4月) ■巡回ツシマヤマネコ展開催(7月、以降毎年継続) ■ツシマヤマネコ(愛称:つしまる)の一般公開開始(12月)
1998	<ul style="list-style-type: none"> ■ツシマヤマネコ保護増殖事業連絡協議会発足(6月) ■新レッドリストにツシマヤマネコが「絶滅危惧IA類」として記載される ■季刊誌「とらやまの森」創刊 ■交通事故防止キャンペーン開始(以降、毎年継続) ■飼育下繁殖用の野生ヤマネコ(ファウンダ)の捕獲 	2004	<ul style="list-style-type: none"> ■集落座談会「ツシマヤマネコと対馬地域の活性化」開催(2、3月) ■福岡市動物園にてツシマヤマネコの一般公開開始(3月) ■「ツシマヤマネコ再導入基本構想」公表(8月) ■シンポジウム「対馬もヤマネコもーツシマヤマネコと地域の活性化ー」開催(8月) ■福岡市動物園で生まれ育ったヤマネコが対馬に初めて里帰り(10月)
2000	<ul style="list-style-type: none"> ■福岡市動物園で初めてのヤマネコの仔ネコ誕生(4月) ■「ツシマヤマネコを語る集い」開催(11月) 	2005	<ul style="list-style-type: none"> ■対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会発足(2月) ■来館者数10万人突破(6月) ■ツシマヤマネコ生息頭数を約80~110頭と推定(第3次生息状況調査)(9月) ■シンポジウム「対馬もヤマネコもー対馬のすばらしい自然とその危機」開催(11月)
2001	<ul style="list-style-type: none"> ■ツシマヤマネコのための生息環境づくり(木庭作)実施(~2003年度まで) ■「日韓ヤマネコシンポジウム」開催(11月) 	2006	<ul style="list-style-type: none"> ■「ツシマヤマネコ保全計画づくり国際ワークショップ」及び市民ワークショップ「対馬もヤマネコもーツシマヤマネコと共生する地域社会を目指してー」開催(1月) ■油に汚染された海鳥の救護活動(2~3月) ■対馬野生動物交通事故対策連絡協議会発足(6月) ■環境教育サイト「島守を育む」公開開始(10月) ■井の頭自然文化園とよこはま動物園で分館飼育開始(11月)
2002	<ul style="list-style-type: none"> ■季刊誌「とらやまの森」全戸配布開始(4月) ■ツシマヤマネコ博士講座開催、自然観察会開催(6月、以降毎年1回程度開催) ■ホームページ開設(8月) 	2007	<ul style="list-style-type: none"> ■年度間交通事故死亡数、過去最悪に達する(1月) ■下島でヤマネコの生息が23年ぶりに確認される(3月) ■舟志区集落座談会開催(3月)、佐護区集落座談会開催(3、6月) ■シンポジウム「対馬もヤマネコもーツシマヤマネコを語るタベ」開催(3月) ■ツシマヤマネコ(愛称:つつじ)一般公開開始(3月) ■つしまる死亡(6月) ■10周年記念式典「ありがとうヤマネコ10周年感謝の集い」開催(9月)



長崎県は、今年の3月に23年ぶりに下島でツシマヤマネコが確認されたことを受け、引き続き厳原町内山地区で自動撮影カメラを用いた調査を行ってきました。その結果、8月7日にツシマヤマネコが撮影されました。

今回撮影された個体は、体の模様から、3月に撮影された個体と同一である可能性が高いことが分かりました。また、撮影された個体の状態から、3月に撮影された時点から引き続き、栄養状態は良好であると推測されます。

5ヶ月ぶりの確認となりましたが、今回の撮影によって、この個体は撮影された地点の周辺になわばりを持ち、定住しているツシマヤマネコであることが推測されます。もし、この個体が本当に定住しているのであれば、それは下島の内山地区がツシマヤマネコにとって安心して暮らせる環境であることを意味しており、この個体以外にも下島でツシマヤマネコが生息している可能性があります。

下島では自動撮影カメラを用いた調査以外にも痕跡調査を実施しており、ツシマヤマネコの可能性がある糞を回収して、DNA分析による種の判別をしています。その結果、5月に回収した糞の中に、ツシマヤマネコの反応がありました。今後も引き続き、関係行政機関、専門家、地域の皆さんの協力を得て、下島でのヤマネコの生息状況を調査してゆく予定です。



↑下島で5ヶ月ぶりに元気な姿を見せてくれたヤマネコ



人の動き



村山 晶 (元自然保護専門員：獣医師) 山形県出身

ツシマヤマネコに出会い、5年9ヶ月対馬で過ごしたことは、私の一生に強烈な影響を与え続けると思います。本当にたくさんの人に出会い、もちろんツシマヤマネコにも出会い、たくさん失敗もしながら、多くのことを学びました。ツシマヤマネコを絶滅の危機から守るための挑戦はまだこれからもしばらく続くと思います。対馬を離れても、ずっと対馬を想い、関わり続けてゆきたいと思います。ありがとうございました。



もてき

茂木 周作 (自然保護官補佐：調査・研究担当) 新潟県出身

学生時代に3年間沖縄から対馬に通い、ツシマヤマネコの調査・研究をしてきましたが、対馬に来る度に対馬の自然の豊かさと対馬に住む人の心温かさに感動していました。この度、対馬の島民となり、みなさんと一緒にツシマヤマネコの保護活動に関われることをとても嬉しく思うとともに、学生時代にお世話になった対馬の自然と住民の皆さんに少しでも恩返しが出来ればと思っています。これからは、保護活動に直接結びつくようなデータを取るために調査をバリバリ行ってゆくつもりです！皆さんが暮らす地域にも調査でお邪魔することがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

富山市ファミリーパークで ヤマネコの飼育が始まります

1996年に福岡市動物園で始まった飼育下繁殖事業は、2000年に繁殖に成功して以来、毎年順調にヤマネコが誕生しています。今までに10頭が対馬に里帰りし、対馬野生生物保護センターと福岡市動物園で飼育をしてきましたが、2006年から新たに井の頭自然文化園とよこはま動物園ズーラシアで、分散飼育を開始しました。

今秋から、新たに富山市ファミリーパークで分散飼育が始まることになり、対馬と福岡から1頭ずつ移動させる予定です。ファミリーパークでは、2004年10月から近縁のアムールヤマネコを飼育している実績があります。

▽今秋、対馬に里帰りする3頭のアムールヤマネコ



◇飼育下繁殖事業の目標

今までに23頭が飼育下で生育し、全体で33頭まで増加しました。最終的には100頭程度のヤマネコを、近親交配を出来るだけ防ぎながら飼育していくことが目標です。

井の頭自然文化園とよこはま動物園ズーラシアで 10月下旬からヤマネコの一般公開が始まります

今まで動物園で繁殖したヤマネコは、将来対馬に野生復帰させる可能性があるため原則非公開としてきました。しかし、野生復帰させるには、餌をとるための訓練をする施設や体制の整備、生息環境の改善など多くの課題があり、すぐに野生復帰させることは出来ません。

一方で、ヤマネコを守るためには今まで以上に多くの方々の理解と協力が不可欠です。ヤマネコを飼育していただける動物園には、年間約230万人が訪れます。ヤマネコと対馬のことを来園者に知ってもらうためには、実際にヤマネコを見てもらい、身近に感じてもらう必要があります。そのため、飼育しているヤマネコの中で、将来野生復帰させる可能性が低い個体については、対馬の親善大使として、10月下旬から動物園で一般公開することになりました。

◇ヤマネコを公開することで期待される効果

- ・対馬とヤマネコの知名度が上がる
- ・知名度が上がり、対馬の農林水産物が売れるようになる
- ・対馬を訪れたいというきっかけになり、観光客が増える
- ・島外からのヤマネコの保護の支援が増える



よこはまの公開個体(左)と
井の頭の公開個体(下)



とらやまの森

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

交通事故に遭い保護されていた ヤマネコ野生に帰る!!!



野外ケージで療養中のラッキー

豊玉町でヤマネコを保護

10月15日に豊玉町の国道上で、交通事故に遭った若いオスのヤマネコが保護され、野生復帰に向けて対馬野生生物保護センターで治療することになりました（事故に遭ったものの軽傷で済んだことから、この記事ではラッキーと呼ぶことにします）。保護された直後は後肢に不自然な動きが見られましたが、みるみるうちに回復して、やがて野外ケージで元気に動き回るようになりました。

野生復帰後の追跡調査の結果

ラッキーの治療経過は良好で、11月27日に野生復帰させることになりました。交通事故で保護したヤマネコを、再び野生に帰すことができるのはとても稀なケースです（ラッキーという名前は伊達じゃありません！）。さらには、若いヤマネコが自分のすみか（なわばり）を持ち、一人前の大人になれる可能性は決して高くありません。元気になったヤマネコを野生に帰すことはとても嬉しいのですが、同時に不安なことも多いです。一人で餌を捕って元気に暮らしていけるのか、交通量の多い道路周辺に留まっていらないか、鶏小屋を襲ったりしていないか・・・などなど。



ツシマヤマネコシンポジウム開催! 🐾

3月23日（日）、上県地区公民館（対馬市上県町佐須奈）において、ツシマヤマネコ保護に関する市民シンポジウムを開催します。基調講演にテレビ番組などでおなじみの千石正一氏を迎えた後、市民にできる具体的なツシマヤマネコ保護の取り組みについて話し合いたいと思います。



事故瞬間の情報や道路周辺でのヤマネコ目撃情報求ム!

10月23日の朝、上対馬町比田勝の国道上でヤマネコの交通事故死体が発見されました。以前にもほぼ同じ地点で事故が起きており、どちらも亜成獣の交通事故でした。現場検証を行ってみると、道路の片側は高い河川護岸があり、通り抜けできない環境でした。事故の瞬間、ヤマネコがどのような動きをしたのかは分かりませんが、別の道路上でヤマネコの亜成獣を見たという方の話では、車に対する警戒心が低く、不可思議な行動をとるようです。

事故の瞬間や道路周辺でのヤマネコの目撃情報は、今後の交通事故対策を考える上でも貴重です。ヤマネコをひいてしまった場合でも故意でなければ罪に問われることはありませんので、是非、情報をセンターまでお寄せください。



マイクロチップのおかげで (^ ^) v



10月2日の早朝、上県町の住民の方から「ヤマネコがイヌに襲われて弱っているから来てくれ!」という連絡がありました。現場に急行して確認したところイエネコでしたが、とても弱っていました。対馬動物医療センターの山本先生に治療をお願いし、マイクロチップを読み取る機械で調べてみるとそのネコにはマイクロチップが入っていて、飼い主の元から長い間行方不明になっていたネコだということがわかりました!!

そのネコの名前は「つぎお」。山本先生の懸命な治療のかがあって、つぎおは無事に飼い主のもとに帰りました。もしマイクロチップが無かったらつぎおは飼い主との再会を果たせなかったことでしょう。現在も、マイクロチップの挿入は**無料**で行っています。ネコを飼っているみなさん、あなたのネコにもマイクロチップを入れてみてはいかがでしょうか??



↑無事に保護された「つぎお」

マイクロチップは米粒くらいの大きさで、ネコに害はありません♪

市民参加の森づくり2007



イベント報告



11月11日(日)に、厳原町内山にある鮎もどし自然公園で、「市民参加の森づくりイベント 2007」(主催: ツシマヤマネコ応援団、共催: NPO 法人対馬郷宿^{ごうしゆく}、当センター)が開催されました。初めての下島開催でしたが、すばらしい天候にも恵まれ、一般参加・関係者合わせて約30名と一緒にマテバシイやスタジイなど6種類のどんぐりのポット苗を作りました。作ったポット苗の数は約800個。みんなで作るとあっという間でした。

また、当日は応援団員の方がどんぐりクッキーやどんぐりコーヒーを参加者にふるまいました! 植えて、食べて、「どんぐり」の新しい魅力がわかった一日でした! この苗を何年か後に下島の森に植樹できるように、みんなで大切に育てましょうね (^-^)/



作ったポット苗を前に、みんなで満面の笑みで記念撮影!!



お昼休みのときに参加者にふるまわれたマテバシイ入りクッキー(^-^)/

飼育下のヤマネコの繁殖計画

寒い時期となり、ヤマネコ達の恋の季節がやってきました。飼育下繁殖は8年目をむかえ、福岡市動物園の努力により毎年順調に数を増やしてきました。現在4つの動物園と対馬で33頭の子猫が飼育されていて、将来的には100頭を目標としています。

今季からは、福岡市動物園に加えて、東京都の「井の頭自然文化園」と神奈川県「よこはま動物園ズーラシア」でも繁殖に取り組み、合計5ペアの子猫を試みます。飼育下におけるネコ科の動物の繁殖は大変難しいといわれています。繁殖技術と経験を持つ動物園が増えることは、飼育下のヤマネコの数を安定して維持するために必要なのです。

対馬で保護されて野生復帰が困難だと判断されたヤマネコが、10月に井の頭自然文化園とよこはま動物園ズーラシアにそれぞれ1頭ずつ移動し、近親交配を避けるために繁殖に参加します。仔ヤマネコの誕生が待ち遠しいですね。



上：比田勝で保護された♂(東京)、下：仁田で保護された♀(横浜)



ツシマテン、東京に行く

2007年6月に、上県町の民家で保護された子供のツシマテンが10月に東京都の井の頭自然文化園に移動し、「もみじ」と名付けられ、人気を集めています。色々悪さをし困りもののツシマテンですが、あらためて顔を見ると、とてもかわいらしい動物です。

ツシマテンは日本の対馬以外の地域にいるテンと毛の色が違うのが特徴で、対馬の自然の独自性・素晴らしさを多くの人に伝えてくれています。



東京都動物園協会友の会が来島!

2007年11月16日～18日に「東京都動物園友の会」の会員、総勢19名が対馬に旅行に来ました。

昨年11月に井の頭自然文化園に行ったヤマネコを見て「対馬を見てみたい!」という声があがり、今回の旅行が実現しました。ヤマネコの保護活動の現場や対州馬、浅茅湾など、対馬の魅力を堪能していただき、「歴史や文化など、もっと対馬のことを知りたくなった」「また対馬に来てみたい」という感想をいただきました。

井の頭自然文化園では、2月23日にヤマネコの講演会が開催され、ツシマヤマネコを守る会の山村会長、豆蔵中学校の國分校長が講演する予定です。今後も、もっと多くの人に対馬を知っていただき、対馬に足を運んでもらいたいと思います。



ヤマネコの保護活動の現場 (左:舟志, 右:田ノ浜)

ツシマヤマネコシンポジウム開催!

3月23日(日)、上県地区公民館(対馬市上県町佐須奈)において、ツシマヤマネコ保護に関する市民シンポジウムを開催します。基調講演にテレビ番組などでおなじみの千石正一氏を迎えた後、市民にできる具体的なツシマヤマネコ保護の取り組みについて話し合いたいと思います。

詳細につきましては、後日、市報やポスターを通じてお知らせします。乞うご期待ください!



自然ふれあいイベント&ヤマネコ教室

ふれあいイベント報告

秋の内山盆地ハイク! 牛乳パックでエコ年賀状!



センターのイベントにいつも来てくれる真央ちゃん!!
お花に名前をつけたよ!



完成した年賀状!!
今回は豊玉の公民館で実施したよ!!
↑牛乳パックを水に入れて、特製の紙すきでハガキを作ったよ!

ヤマネコ教室の報告

10~12月もたくさんの方々センターをご利用いただきました。

最近、ヤマネコの糞の中身を調べる学習が大人気です!!ただ、問題なのはいくら処理しても、少し糞のニオイが残ることです。けれども、子どもたちはニオイと戦いながら、楽しく学習してくれています。

興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。(担当:上山・大谷)

冬のイベント開催のお知らせ!

1 月 どうぶつのお家づくり!

1月27日(日)13:00~15:00

巣箱を利用する動物にはどんなのがいるかな?利用する動物にあった巣箱を作ってみよう!

(開催場所:対馬野生生物保護センター)

2 月 海鳥救護・エコキャンドル!

2月17日(日)13:00~15:00

家庭から出た廃油を使って、エコキャンドルを作ってみよう!そして、近年対馬海域で発生している海鳥の油汚染についても勉強しよう!

(開催場所:対馬市交流センター)

3 月 春の植物観察会!

3月23日(日)10:00~12:00

植物の専門家である國分英俊先生が案内する対馬の春の植物観察会!!

いっしょに、対馬の春を探しに行きませんか?

(開催場所:対馬野生生物保護センター)

◆10~12月の利用してくれた団体◆

- ◆仁田中学校
- ◆仁田小学校
- ◆比田勝小学校
- ◆阿連小学校
- ◆大船越小学校
- ◆久原小学校
- ◆美津島北部小学校
- ◆教員10年者研修会
- ◆東京動物園友の会

3学期も
利用してね!



☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

- 2月 4日、12日、18日、25日
- 3月 3日、10日、17日、24日、31日
- 4月 7日、14日、21日、28日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第40号は2008年4月発行の予定です。

とらやまの森林

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

2008 春号
NO.40

ヤマネコ、上対馬町で保護!

ツシマヤマネコの
亜成獣保護される!

二〇〇八年二月一日の夜、対馬北警察署から当センターに衰弱したヤマネコを預かっているとの連絡がありました。最初に発見したのは対馬市立南陽小学校の六年生(当時)の米田貴絵さんで、その後、対馬タクシー・ドライバーの立花孝行さんが道路上にうずくまっているヤマネコを保護し、対馬北警察署まで運んでくださったということでした。保護された時のヤマネコの状態から、交通事故に遭ったと思われる

保護されずに、道路にうずくまっていたままだと、走行中の車に再びひかれたかもしれませんが、そのまま衰弱して死んでしまっていたかもしれません。米田貴絵さん、立花孝行さん、そして対馬北警察署のみなさま、本当にありがとうございました。ありがとうございました。ヤマネコに代わってお礼申し上げます。



やまねこ News



飼育員：ヒロ

保護されたヤマネコは、保護と補給（点滴）・投薬で何とか回復してくれているのを待ちました。三日間は意識のない状態でしたが、治療の甲斐あって、昏睡状態から少しずつ回復し、餌を食べさせることと元気が出てきました。

保護されたヤマネコは、保護と補給（点滴）・投薬で何とか回復してくれているのを待ちました。三日間は意識のない状態でしたが、治療の甲斐あって、昏睡状態から少しずつ回復し、餌を食べさせることと元気が出てきました。

保護されたヤマネコは、保護と補給（点滴）・投薬で何とか回復してくれているのを待ちました。三日間は意識のない状態でしたが、治療の甲斐あって、昏睡状態から少しずつ回復し、餌を食べさせることと元気が出てきました。

保護されたヤマネコは、保護と補給（点滴）・投薬で何とか回復してくれているのを待ちました。三日間は意識のない状態でしたが、治療の甲斐あって、昏睡状態から少しずつ回復し、餌を食べさせることと元気が出てきました。

保護されたヤマネコのその後



入院中のヤマネコ

ヤマネコ保護者にインタビュー！

ヤマネコ保護者にインタビュー！

ヤマネコが保護される背景には、いつも島内の方々のご協力があります。今回、ヤマネコ保護にご尽力いただきました米田貴絵さん、立花孝行さんにヤマネコの発見状況についてインタビューしました。

ヤマネコ保護者にインタビュー！



飼育員：神宮

発見したとき、すでにヤマネコだと気づきましたか？

はい。以前、小学校にセンタリーの方が来り、ヤマネコの特徴を教えたくれたので、すぐに気づきました。

立花

はい。普通のネコと比べると、耳が大きいので、ヤマネコだと思いました。

立花

助けたヤマネコがメスだったこともあり、自分の積み重ねたいと思います。

ヤマネコが元気になってくれてよかったです。(笑)

立花

助けたヤマネコがメスだったこともあり、自分の積み重ねたいと思います。

立花

助けたヤマネコがメスだったこともあり、自分の積み重ねたいと思います。

※ヤマネコが怪我をしたり、死んでいるのを発見したらすぐに連絡してください。

0920-84-5577

職員日誌①『カエルぴょこぴょこ。』

めっきり暑めになってきましたね。ヤマネコたちもあくせましたりと、気持ちよさそうです。センターの近くにある池にもカエルが卵をうみ、オタマジャクシが泳いでいます。

なんでも今年は「国際カエル年」とのこと。環境破壊やツシマカビ症という病気で、地球上の1/3以上のカエルが絶滅の危機にあるということで、IUCN（国際自然保護連合）という団体が呼びかけています。もしも対馬にいるカエルは3種類ですが、ツシマアカガエルは世界で対馬だけ、ショウセンヤマアカガエルは日本では対馬だけにはしかいないと聞くと、対馬のカエルは特別な気がしますね？



ヤマネコのあくせ



ツシマアカガエル

保護官：ささき
(出身地：神奈川県)



趣味：息子、釣り、スーパーで買い物、畑（1畝）、ホロン吹き

とらやまの森にご意見ご感想を！

●読者の方がより読みやすい『とらやまの森』にするために、ご意見ご感想を募集致します。(郵送先は表紙の在りませへください。)

対馬の環 News

市民シンポジウム

「あ、つなげよう！」
私たちのくらしと対馬の未来

「対馬は、両生・爬虫類の種類数は多くはないが、対馬にしかないものがほとんど。対馬以外の地域に分布している種でも、対馬のものはちよつと違う」。去る三月二十三日に上県町佐賀会で開催された市民シンポジウムの講演で、テレビでおなじみの千石正一氏は対馬の自然の特徴をそのように説明しました。

その後、対馬の自然を守り活かしていくために、市民にできることは何かを探るべく、自然保護や地域づくりに取り組む市民団体を交えた総合討論が行われました。参加者からは「私も何かしなければ」という気持ちになった。「地域づくりが自然を守ることにつながる。横の連携が必要」などの感想が聞かれました。



市民団体の意見交換会

「対馬をつなぐ！」

対馬には、自然保護や自然資源を活かした地域づくりに取り組む市民団体が二十近くあるのを二存じでしょうか。そのような団体が手を取り合えば、対馬が元気になる。対馬の素晴らしい自然を守ることのできる。そういう考えのもと、二月十七日に、市民団体、行政関係者、専門家約五十名にお集まりいただき、意見交換を行いました。

会合では、各団体の活動紹介が行われ、それぞれが抱える課題の解決方法について話し合いました。多くの参加者が、多様な団体の存在や活動の取り組みを知り、明日への刺激になったようです。今後情報交換し、協力し合えるようなネットワークづくりを進めてゆく予定です。



「アレンジャー」
前田やゆき

対馬

対馬の守人 神宮正芳さん

「持続的な農業経営を目指す」

口癖は「資源なくして農業は成り立たず、農業なくして資源は守れず、経済効果なくして農業は持続せず」。神宮正芳さんは、農業の基盤である自然をいかに守り、経営に活かすかがしゆゆの関心事。農業が身近な生き物たちを育てたことを自覚し、人と生き物が息みを分けて合えるよう環境に配慮した農業を実践する。また、築140年の自宅を活かし、農業民宿も経営。島外の人たちには対馬の自然や農業の素晴らしさを伝えたいという。

この春からは、環境調和型は場整備が進む上県町田ノ浜において、一般客や子供たちを交えた「田んぼの学校」を開校予定。将来的には冬期道楽などにもチャレンジしたいと、語も争は息きない。



(上県町中山在住、67歳)

センター用語

●A(アグティブ)・レンジャー……環境省の自然保護官の補佐。ガスワープの多い保護官に代わり、野外の現場業務を担う。

センター News



職員（獣医師）の交代

前 松原 ゆき

2年半の間、センターで働いてきましたが、昨年いっしょに退職致しました。対馬で働くという夢を叶え、忙しく楽しい毎日でした。私にはツシマヤマネコの主治医になるという大きな夢があります。今度はその夢に向かって日々努力していきたいと思っています。短い間でしたが、お世話になりました。



新 山本 英恵

2004年に動物病院で働くために対馬に来ました。それから、ツシマヤマネコの保護などで保護センターと関わっていましたが、4月からセンターに勤務することになりました。対馬のいきものたちのために、これからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

イベント情報

親子向け座学型講座

『まらまらホウリの観覧会』

6月21、22日（土、日）
14:00～18:00

会場：対馬青年の家
講師：柳田 政則氏（自然観察会）
参加費：1500円（小学生、中学生）
対馬のホウリについて知ろう！
●対馬のホウリ
●ホウリの不思議
●星空ホウリの観覧会

親子向け講座

7月のイベント

『おしの観覧会』

講師：横 良朗氏（自然観察会）
（日時場所は未定）

小学生以上向け講座

8月のイベント

『自由研究相談会』

（日時場所は未定）

昨年夏の引き続き、今年度も僕たちがセンターのイベントを担当します！
お父さんお母さんお誘いをお願いします。
イベント会場で会いましょう！



うまやま、おれや。

ヤマネコ Book の紹介

2002年に発行された『ツシマヤマネコ-対馬の森で、野生との共存を目指す』の続編が、4月26日に発売されました！前作から5年、ヤマネコをめぐる状況は大きく進展しました。

＜改訂版＞では、前作のもの後について変じで頂けるほか、初めてヤマネコについて知りたいという人にも、ヤマネコの現状、保護の取り組み等をわかりやすく、身近に感じて頂けるよう心がけました。

★ご希望の方はセンターまでご連絡を。

価格：1,000円（86、168ページ）、発行：長崎新聞社

著者：ツシマヤマネコ BOOK 編集委員会（代表：対馬野生動物保護センター）



編集後記

リニューアルした『とらやまの森』はいかがでしたでしょうか？
資料誌を発行して10年、少しは皆さんに読んで読みのすい
『とらやまの森』になつてはいかがでしょうか？
是非、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。
なお、今年からイラストの一部をボランティアでIllustration、アール
書いていただいております。
（編集者一同）



今日の一枚
ツシマヤマネコ
の本では対馬の森
の植物や生き物
の生態や、土
下生活は花
花

とらやまの森 No.40 2008 春号



★『とらやまの森』の記事を引用される際には、出典が『とらやまの森』であることを明記して下さい。

休館日のお知らせ

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は閉館し、その翌日が休館日となります。